

TASCAM

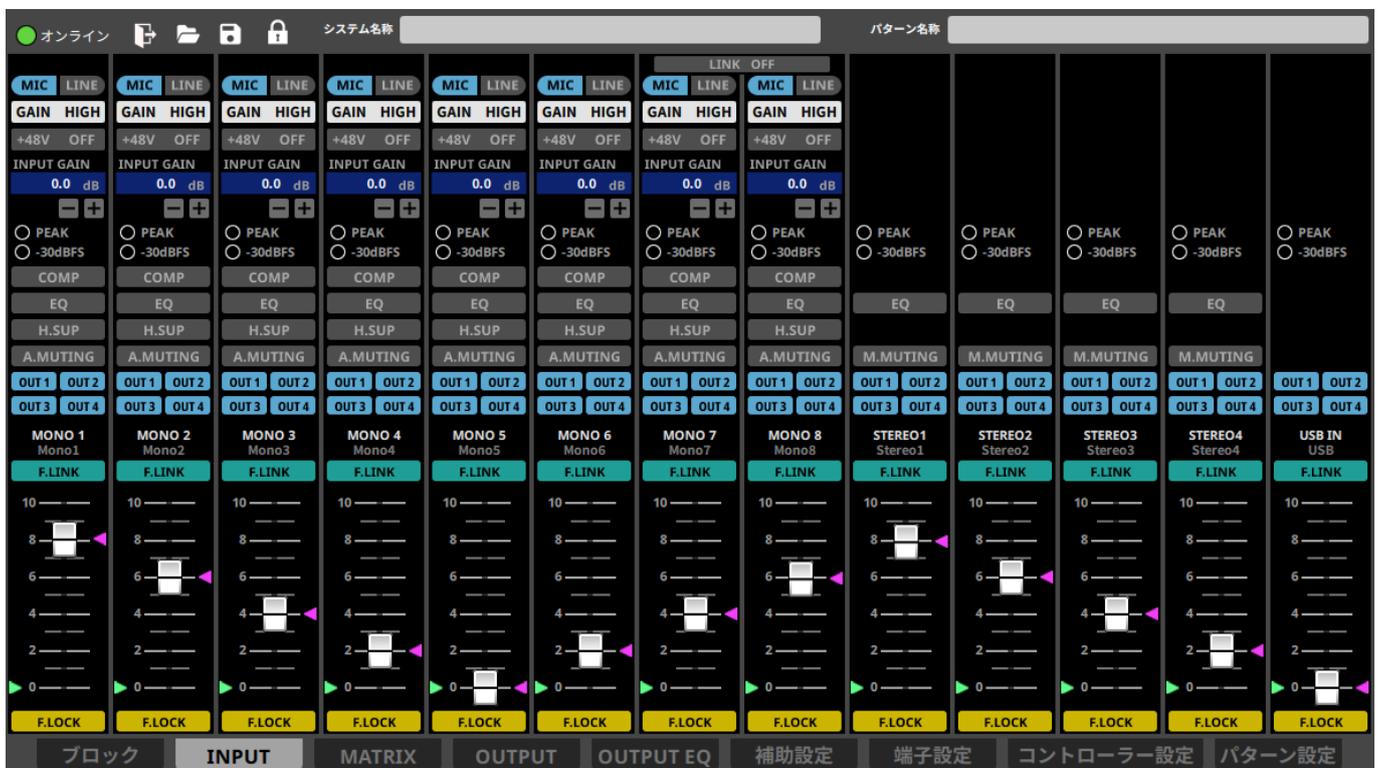
D01421800B

TASCAM

MX-D CONNECT

取扱説明書

V1.10



目次

本アプリケーション.....	3	MATRIXタブ.....	19
ユーザー登録について.....	3	マトリクス設定.....	19
本書の表記.....	3	OUTPUTタブ.....	19
商標および著作権に関して.....	3	OUTPUT EQタブ.....	22
動作環境.....	3	補助設定タブ.....	26
Windows.....	3	アナウンスミュート設定.....	26
対応 OS.....	3	ミュージックミュート設定.....	26
対応パソコン.....	3	ハウリングサプレッサー測定.....	27
CPU.....	3	パターン切り換えスイッチ割り当て設定.....	28
メモリー.....	3	端子設定タブ.....	28
ディスクの空き容量.....	3	リモートイン端子設定.....	28
画面解像度/色数.....	3	リモートアウト端子設定.....	28
アプリケーションのインストール.....	4	ネットワーク設定.....	29
インストール手順.....	4	コントローラー設定タブ.....	30
TASCAM MX-D CONNECT を本体と接続する.....	5	RC-W100 のディスプレイの表示について.....	31
ログイン手順.....	5	操作モードの詳細.....	32
ファイル転送.....	6	パターン設定タブ.....	34
オフライン編集.....	6		
共通項目の説明.....	7		
ヘッダー共通項目.....	7		
オンライン/オフライン.....	7		
ログアウト.....	7		
パターンファイル読み込み.....	8		
パターンファイル保存.....	8		
編集画面の操作ロック.....	9		
システム名称入力/表示.....	9		
パターン名称入力/表示.....	9		
フッター共通項目.....	9		
設定画面切り換えタブ.....	9		
各タブ画面の詳細.....	10		
ブロックタブ.....	10		
接続機器名称設定.....	10		
入力マイク/ライン調節.....	10		
入力レベル表示.....	11		
ステレオリンク.....	11		
入力コンプレッサー調節.....	11		
入力イコライザー調節.....	12		
入力フェーダー調節.....	13		
マトリクス設定画面.....	13		
モノラル/ステレオ切り換えボタン.....	13		
出力イコライザー調節.....	13		
出力ディレイ設定.....	13		
バランス調節.....	14		
出力フェーダー調節.....	14		
出力コンプレッサー調節.....	15		
OUT1/OUT2 出力レベル表示.....	16		
OUT3/OUT4/USB 出力レベル表示.....	16		
パターンメモリー切り換えボタン/パターン名称表示.....	16		
INPUTタブ.....	17		

本アプリケーション

本アプリケーションをご使用いただく場合は、「ソフトウェア使用許諾契約書」をお読みいただき、同意いただいた上でご使用ください。

注意

本アプリケーションは、Windows OS 専用です。
Mac OS には対応しておりません。

TASCAM MX-D CONNECT は、Windows パソコンから MX-D 1606 の設定・制御が可能なソフトウェアです。
オフライン・オンライン編集に対応し、パターンメモリーのインポート・エクスポートも可能です。
同一ネットワーク上にある複数台の MX-D 1606 を一元管理することも可能で、システム設計から現地での最終調整までの一連のワークフローを強力にサポートします。

- 本アプリケーションは、TASCAM のウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) の MX-D 1606 の製品ページから無料でダウンロードが可能です。

ユーザー登録について

TASCAM のウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願い致します。

<https://tascam.jp/jp/login>

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- Windows OS 対応のパーソナルコンピューターを「パソコン」と表記します。
- MX-D 1606 本体を「本体」、または、「デバイス」と表記します。
- 本アプリケーションとは、「TASCAM MX-D CONNECT」を示します。
- パソコン上に表示される文字やボタンを「INFO」、または [OK] のように表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本アプリケーションをこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

⚠ 注意

指示を守らないと、人がけがをする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAM およびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista および Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、Mac、macOS、iOS、iPad、iPadOS および iTunes は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではありません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、またはこれらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

動作環境

最新の対応 OS 状況については、TASCAM のウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) をご確認ください。

注意

対応 OS での動作確認は、下記のシステム条件を満たす標準的な環境での結果になります。
下記の条件を満たす環境であっても、すべての動作を保証するものではありません。

Windows

対応 OS

Windows 10 : 64 bit
Windows 11 : 64 bit

メモ

Windows 7、Windows 8、Windows XP および Windows Vista では、お使いになることができません。

対応パソコン

Windows 対応パソコン

CPU

Intel® 第 3 世代 Core™ プロセッサ以降の Core i シリーズ

メモリー

8GB 以上

ディスクの空き容量

150 MB 以上の空きが必要

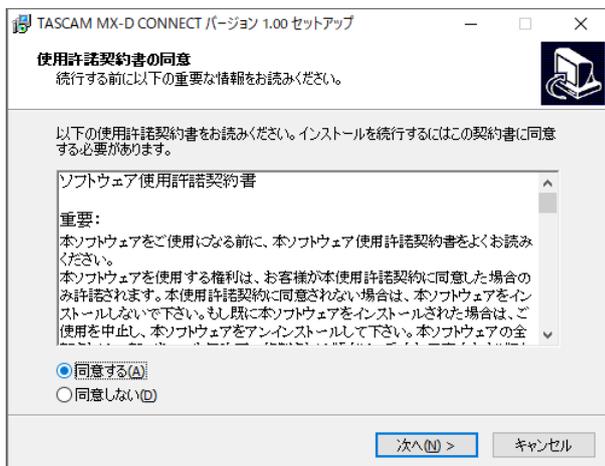
画面解像度／色数

1280 x 720 ドット以上
True Color (32 bit) 推奨

アプリケーションのインストール

インストール手順

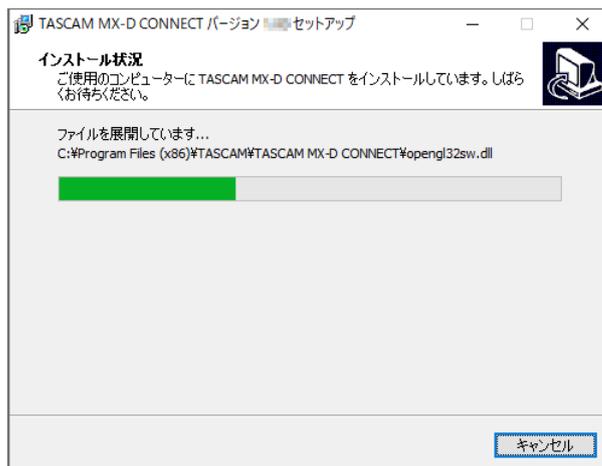
1. お使いのパソコンをインターネットに接続してください。
2. TASCAM のウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) の TASCAM MX-D CONNECT の製品ページから、インストーラーファイル「TASCAM_MX-D_CONNECT_installer_---.exe ("---" はバージョン番号)」をダウンロードし、ご使用のパソコンに保存してください。
 - インターネット接続における通信費用は、お客様のご負担となりますのでご了承ください。
3. 保存したインストーラーファイルをダブルクリックし、インストーラーを起動してください。
4. ソフトウェアの使用許諾契約書画面を表示します。
内容に同意ができれば、「同意する (A)」を選択し、[次へ (N)] を押して次に進みます。



5. インストールの準備完了画面を表示します。
[インストール (I)] を押します。



6. インストールの進行状況画面を表示します。
インストールを途中で中止したい場合は、[キャンセル] を押します。



7. インストール完了画面を表示します。
すぐに TASCAM MX-D CONNECT を起動する場合は、そのまま [完了 (E)] を押してください。
後で、TASCAM MX-D CONNECT を起動する場合は、[TASCAM MX-D CONNECT を実行する] のチェックマーク (✓) を外してから、[完了 (E)] を押してください。



以上で本アプリケーションのインストール作業は完了です。

TASCAM MX-D CONNECT を本体と接続する

メモ

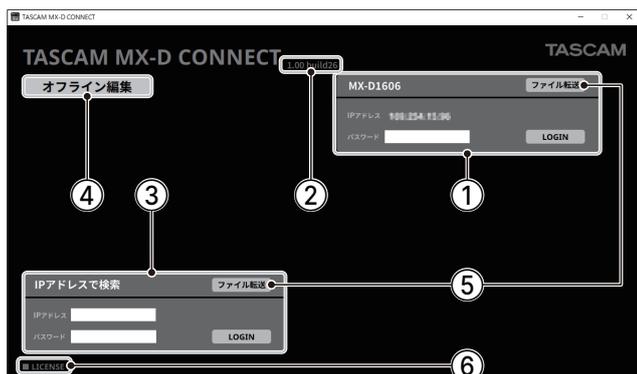
- 本体と本アプリケーションを使用するパソコンを同じルーターに接続してください。
複数のハブやルーターを経由して接続される場合、本アプリケーションが、ネットワーク上の機器の検出を行えないことがあります。
- 1つのハブやルーターに本体と他のネットワーク機器を接続している場合でも、お使いの機種によっては、検出が行えない場合があります。
詳しくは、ネットワーク管理者様へお問い合わせください。
- 接続に使用するLANケーブルは、カテゴリ 5e以上のSTPケーブルをご使用ください。
クロスオーバー・ケーブル、ストレート・ケーブルのどちらでも使用できます。

ログイン手順

1. 本体の電源を入れ、LANケーブルでルーターに接続します。

メモ

1. 本体とパソコンをLANケーブルで直接接続してもお使いいただけます。
2. パソコンをLAN接続で、本体と同じネットワークに接続します。
3. TASCAM MX-D CONNECT を起動すると、ログイン画面が表示されます。



[ログイン画面]

① 本体情報

ネットワーク上で検出された本体を表示します。
その際、検出したデバイス名(本体)とIPアドレスも表示します。
(本体が複数存在する場合、検出した台数分を下段に表示します。)

② バージョン

本アプリケーションのバージョンを表示します。

③ IPアドレス検索

IPアドレスを指定して、ネットワーク上の本体を検索します。

④ オフライン編集

本体と未接続でも各種パラメーターの設定が行えます。

⑤ ファイル転送

パソコンに保存しているパターンファイルを本体に転送できます。

⑥ LICENSE

"■"部分を押しと画面にOSS(オープンソースソフトウェア)ライセンスを表示します。

4. [本体情報 (①)] で、ログインしたい本体の[LOGIN]を押すか、[IPアドレス検索 (③)]にIPアドレスを入力して、[LOGIN]を押してください。

- 本体パスワードの設定をしている場合は、パスワードを入力してください。
- 本体との接続が確立されるまで、"ログイン中です"と表示します。

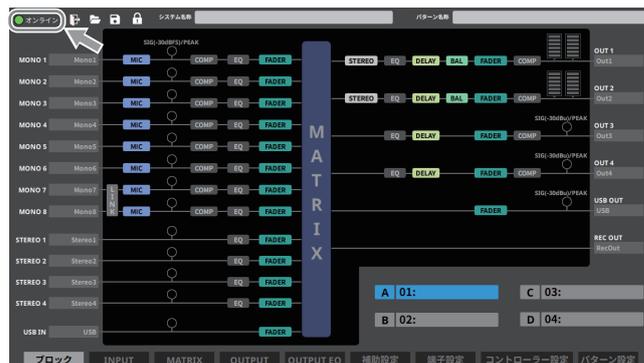


[ログイン中画面]

メモ

本体に初期パスワードは、設定されていません。
初回接続は、パスワード空欄のままログインしてください。
必要に応じ、**端子設定タブ**で本体にパスワードを設定してください。
パスワードを設定しないと保護されません。(→ 28 ページ「端子設定タブ」)

5. 本体とパソコンの接続が確立されると、最初に[ブロック]画面が表示されます。

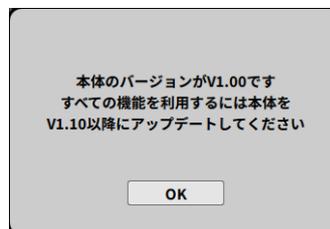
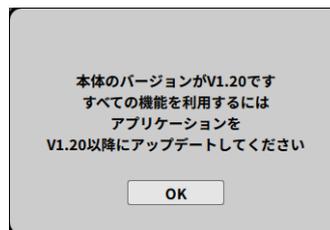


[ブロック画面]

- 本体にログインし、オンライン状態となると、画面左上部のアイコンがグリーン表示されます。



- 本体のファームウェアバージョンと本アプリケーションのバージョンが一致していない場合、下図のメッセージが表示されます。



ファイル転送

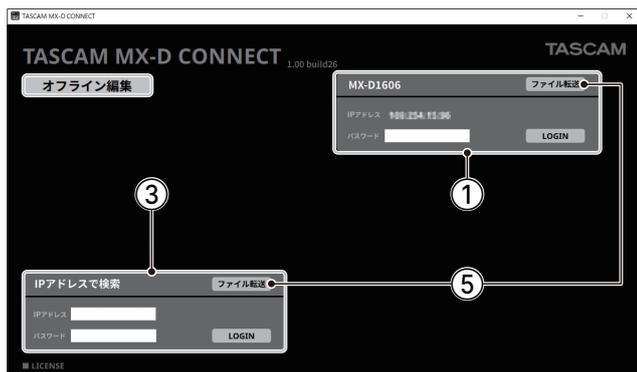
オンライン中やオフライン時に設定した1～16のパターンを保存したパターンファイルを本体に転送します。

- パターンファイルについては、8ページ「パターンファイル保存」を参照してください。

注意

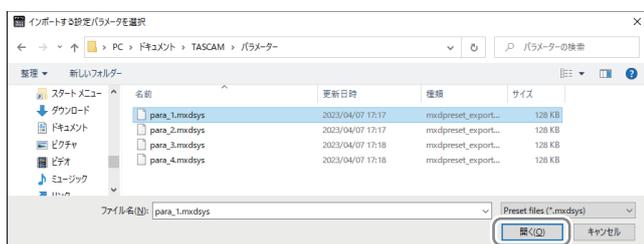
パターンファイルを変更する場合、設定された内容によっては、突然音量が変化する場合がありますので、ご注意ください。

1. ログイン画面で[本体情報 (①)] にパスワード (設定していた場合) を入力してから[ファイル転送 (⑤)] を押してください。
[IPアドレス検索 (③)] でファイル転送を行う場合、IPアドレスとパスワード (設定していた場合) を入力してから[ファイル転送 (⑤)] を押してください。



[ログイン画面]

2. [インポートする設定パラメータを選択]画面が開きます。

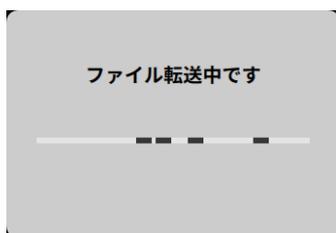


[インポートする設定パラメータを選択画面]

3. 転送したいファイルを選択して、[開く (O)] を押すと、本体にログインを実行後、パターンファイル転送を開始します。



[ログイン中画面]



[パターンファイルの転送中画面]

- パターンファイルの転送中は、本体のPOWERインジケータが点滅します。ファイル転送を完了すると、POWERインジケータは点灯に戻ります。

オフライン編集

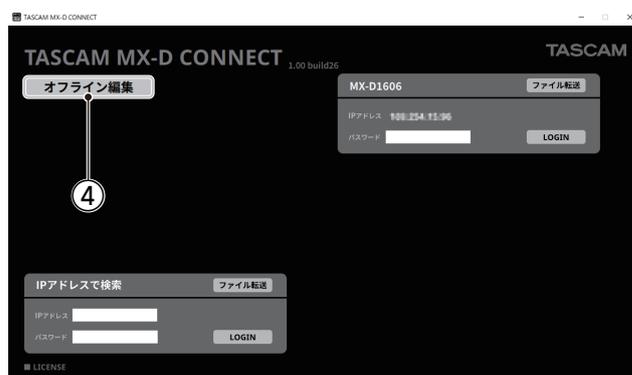
本体と未接続の状態でも、本アプリケーション上で、設定の編集が行えます。

メモ

オフライン編集モードでは、本体の設定が変更されることはありません。

設定・変更した内容を本体に反映したい場合は、設定パラメータを保存し、本体接続時にその設定パラメータを読み込んでください。

1. ログイン画面で[オフライン編集 (④)] を押してください。



[ログイン画面]

2. [ブロック]画面が表示されます。



[ブロック画面]

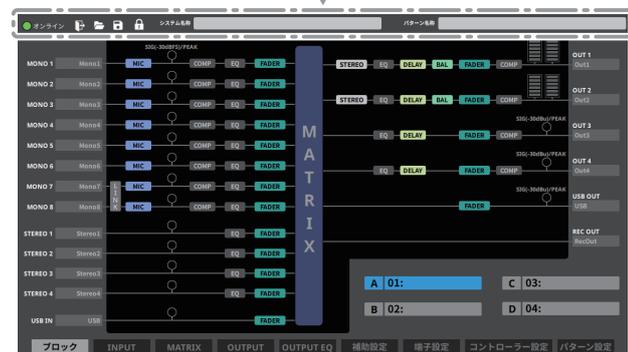
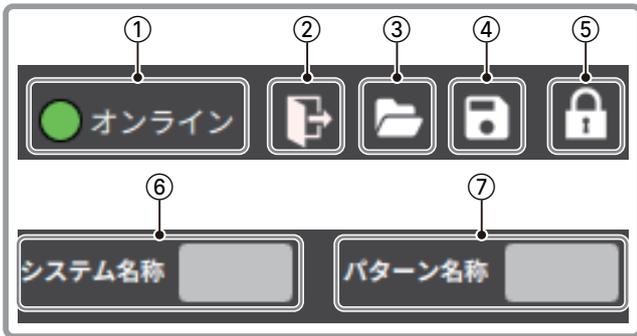
- オフラインでの編集中は、画面左上部のアイコンがグレー表示されます。



共通項目の説明

本アプリケーションのヘッダー部およびフッター部は、すべての設定画面にわたって共通の動作をします。

ヘッダー共通項目



[ヘッダー部画面]

	アイコン	説明
①		オンライン表示 本体にログインして、本アプリケーションから本体の設定を変更できる状態です。
		オフライン表示 本体と接続しないオフライン編集です。
②		ログアウトアイコン アイコンを押すと、ログイン画面に戻ります。
③		パターンファイル読み込みアイコン アイコンを押すと、パソコンに保存しているパラメータを選択し、本体に読み込むことができます。
④		パターンファイル保存アイコン アイコンを押すと、本体に保存されたパターンメモリーの内容をパターンファイルとしてパソコンに保存します。
⑤		編集画面の操作ロックアイコン アイコンを押すと、その画面設定の操作を無効にします。 誤操作を防止できます。
⑥		システム名称入力/表示 本体が使用されている音響システムの名称を入力します。
⑦		パターン名称入力/表示 設定中のパターン名称を表示します。 名称表示部を押すと、パターン名称入力画面が表示されます。

オンライン/オフライン

本体との通信状況表示します。

	オンライン表示 パソコンと本体の通信が正しく接続され、正常な通信が行われています。
	オフライン表示 パソコンと本体の通信が行われていません。 オフライン編集はこの表示です。

ログアウト

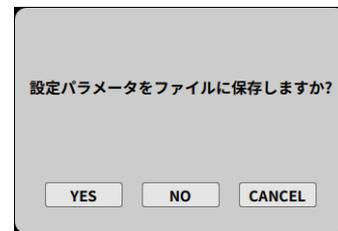
オンライン中にログアウトする時や、オフライン編集の終了時に、このアイコンを押してください。

各設定画面からログイン画面に戻ります。



[ログアウトアイコン]

オフライン中に設定を変更した場合は、設定したパラメータの保存を[する/しない]の確認メッセージを表示します。



[設定したパラメータの保存確認メッセージ画面]

- 設定した内容を保存する場合は、[YES] ボタンを押してください。パターンファイルをパソコンに保存します。
- ファイル保存が不要な場合は、[NO] ボタンを押してください。
- ログアウトをしない場合は、[CANCEL] ボタンを押してください。

パターンファイル読み込み

パソコンに保存してあるパラメーターを読み出して、編集することができます。

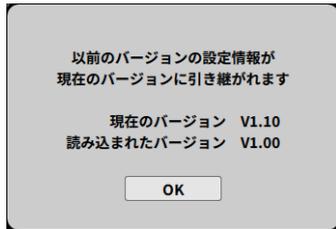


[パターンファイル読み込みアイコン]

このアイコンを押して、パソコンに保存してある設定パターンファイルを選択して、「開く(O)」を押してください。

メモ

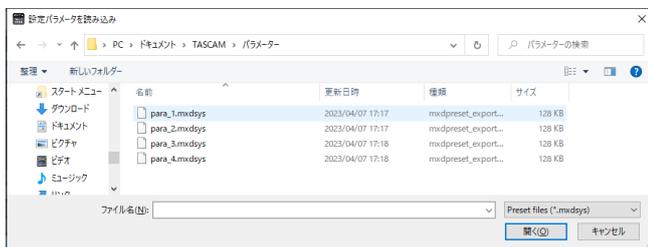
- オフライン編集中に、以前のバージョンのMX-D CONNECTで作成されたパターンファイルや、パソコンに保存されたパターンファイルを読み出した場合、下図のメッセージが表示されます。



- 必要に応じて、保存してあるパラメーター読み出す前に、現在の編集したパラメーター設定をファイルに保存してください。
- 読み出したパターンファイルにシステム名称やパターン名称が、付与されている場合、7ページ「ヘッダー共通項目」のシステム名称入力欄(⑥)およびパターン名称入力欄(⑦)にその名称を表示します。

ヘッダー共通項目	
オンライン	システム名称
例: システム名称欄(⑥)	パターン名称
システム名称	市立体育館
例: パターン名称欄(⑦)	
パターン名称	パターン_1

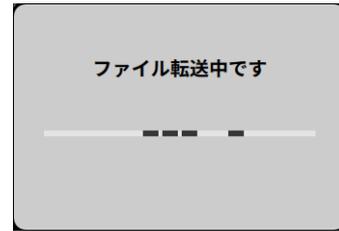
ファイルの読み込みを止める場合は、「キャンセル」を押してください。



[設定パラメーターを読み込み画面]

現在編集中のパラメーター、およびオンライン接続されている本体の設定内容も書き換わります。

- 本体にパターンファイルの転送中は、下図のメッセージを表示します。



[パターンファイルの転送中画面]

- パターンファイルの転送中は、本体のPOWERインジケータが点滅します。パターンファイルの転送を完了すると、POWERインジケータは、点灯に戻ります。

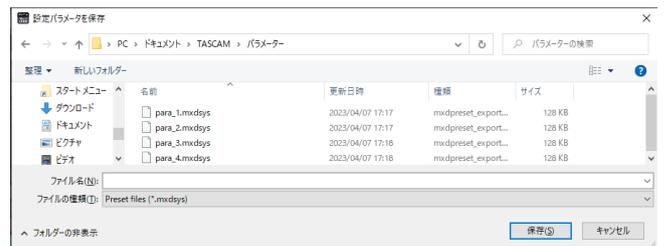
パターンファイル保存

本体内に保存されている1～16のパターン設定をパターンファイルとしてパソコンに保存できます。



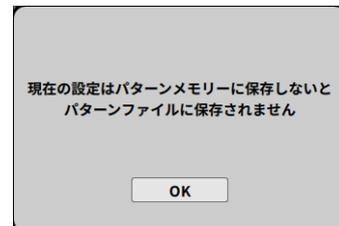
[パターンファイル書き出しアイコン]

パターンファイル名を設定して、「保存(S)」を押します。ファイルの保存を止める場合は、「キャンセル」を押してください。



[設定パラメーターを保存画面]

- システム名称入力欄(⑥)に入力した名称もパターンファイルに保存されます。
- 34ページ「パターン設定タブ」の[パターン1～16]のパターンメモリーに保存した各設定パラメーターとパターン名称がパターンファイルとして保存されます。
- 現在の設定中の各設定パラメーターやパターン名称もパターンメモリーに保存しないとパターンファイルとして保存されませんので、ファイル保存を確定する前に、パターンメモリーに保存したかの確認メッセージを表示します。



[パターンメモリーの保存確認画面]

問題ない場合は[OK]ボタンを押してください。

- 同じ名前のファイルがあるときは、上書き保存の確認メッセージを表示します。パターンファイル名を修正する場合は、[いいえ(N)]を押して、新しいファイル名で保存してください。

編集画面の操作ロック

設定タブ画面毎に、編集操作を無効にします。
誤操作を防止できます。



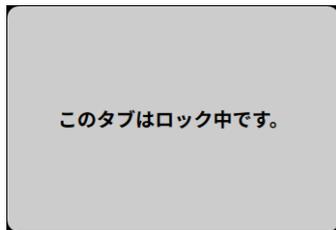
[操作ロックアイコン]

このアイコンを押すと、下図のロック中表示に変わり、現在の編集画面がロック状態になり、設定変更の操作を受け付けなくなります。



[操作ロック中アイコン]

- 操作ロック中に設定画面を押すと、下図のメッセージを表示します。

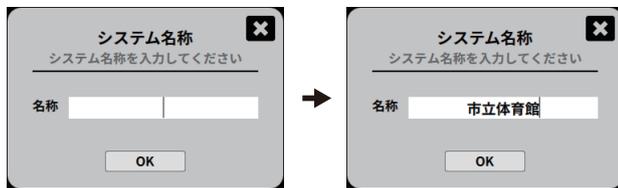


[操作ロック中のメッセージ画面]

もう一度、[操作ロック中アイコン]を押すと、画面のロック状態を解除して編集操作ができるようになります。

システム名称入力／表示

本体が使用されている音響システムの名称を入力／編集します。
パターンファイルの保存の際、[システム名称]も保存します。
表示部を押すと、システム名称入力画面が表示されます。



[システム名称入力画面]

システム名称を入力後、[OK]ボタンを押してください。
入力可能文字数は、最大 20 文字です。

- 「」は、使用できません。

パターン名称入力／表示

本体に設定するパターン名称を入力／編集します。
表示部を押すと、パターン名称入力画面が表示されます。



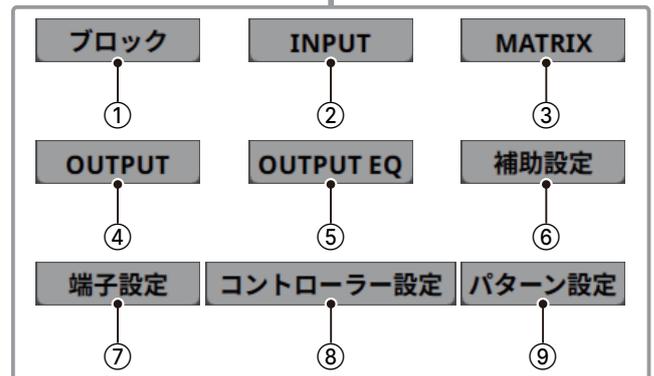
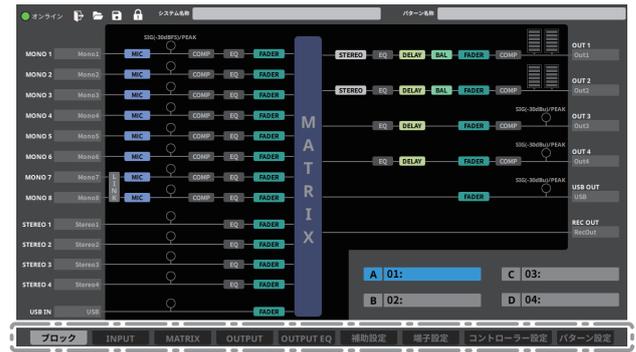
[パターン名称入力画面]

システム名称を入力後、[OK]ボタンを押してください。
入力可能文字数は、最大 20 文字です。

- 「」は、使用できません。

フッター共通項目

設定画面切り換えタブ

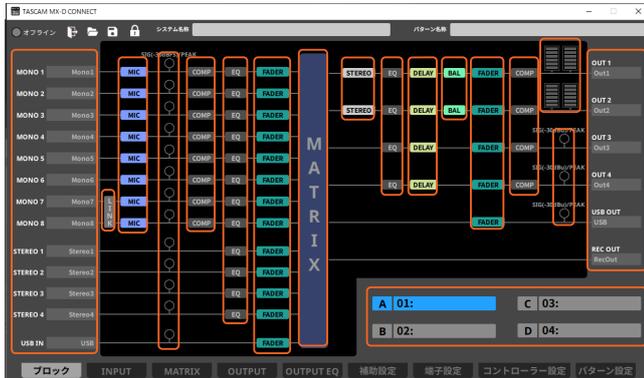


	アイコン	説明
①	ブロック	入出力系統の各種設定やマトリクス画面に移動可能です。
②	INPUT	入力系統の各種設定が可能です。
③	MATRIX	入力信号の出力先をマトリクス設定します。
④	OUTPUT	出力系統の各種設定が可能です。
⑤	OUTPUT EQ	出力系統のイコライザーに関する各種設定が可能です。
⑥	補助設定	アナウンス／ミュージックミュート設定、ハウリングサプレッサー設定、パターン切り換えスイッチの割り当て設定が可能です。
⑦	端子設定	リモートイン／アウト端子の設定やネットワーク、ログインパスワードの設定が可能です。 本体ファームウェア情報も表示します。
⑧	コントローラー設定	ウォールマウントコントローラー RC-W100 の設定が可能です。
⑨	パターン設定	パターン選択やメモリーへの保存／読み出しが可能です。

各タブ画面の詳細

ブロックタブ

各入出力端子の名称入力や、各種設定が行えます。
(設定開始直後は、この画面が表示されます。)



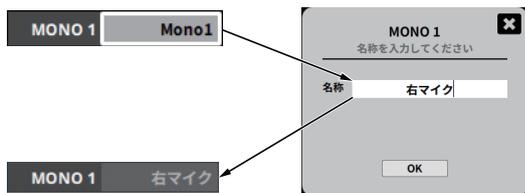
[ブロック画面]

上図の赤枠を押すと、各詳細説明ページに移動します。

接続機器名称設定

入力名称

各入力の名称を入力し、表示します。
入力名称の表示部を押すと、入力名称画面が表示されます。
接続した機器などの名称を入力し、[OK] ボタンを押してください。
入力名称の表示部に入力した名称が表示されます。



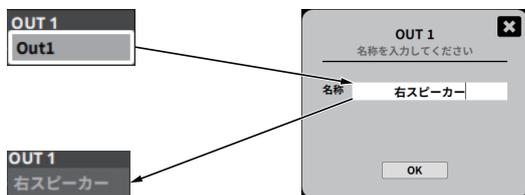
[入力名称画面 (例: 右マイク)]

入力可能文字数は、最大 20 文字です。

- 「"」は、使用できません。

出力名称

各出力の名称を入力し、表示します。
出力名称の表示部を押すと、出力名称画面が表示されます。
接続した機器などの名称を入力し、[OK] ボタンを押してください。
出力名称の表示部に入力した名称が表示されます。



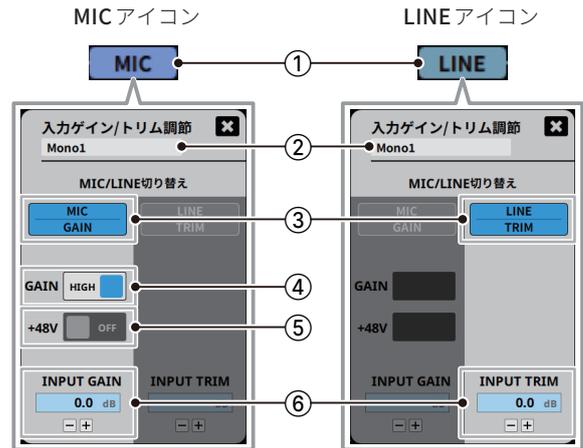
[出力名称画面 (例: 右スピーカー)]

入力可能文字数は、最大 20 文字です。

- 「"」は、使用できません。

入力マイク／ライン調節

MONO 1～8 に接続されたマイクやライン機器の入力感度を調節します。



[マイク/ライン調節画面]

① MIC/LINE アイコン

MIC表示の時にアイコンを押すと、マイク調節画面を表示します。
LINE表示の時にアイコンを押すと、ライン調節画面を表示します。
(初期値: [MIC])

② 入力名称表示部

接続機器名称設定で、入力した入力名称が表示されます。

③ [MIC/GAIN]、[LINE/TRIM]切り換えスイッチ

スイッチを押して、チャンネルの入力のタイプを選択します。
(初期値: [MIC])

④ [MIC/GAIN] HIGH/LOW切り換えスイッチ

スイッチを押して、[HIGH] / [LOW] を切り換えます。
[HIGH] のとき、入力信号を約 30 dB 増幅させることができます。
(初期値: [HIGH])

⑤ [MIC/GAIN] + 48V ON/OFF スイッチ

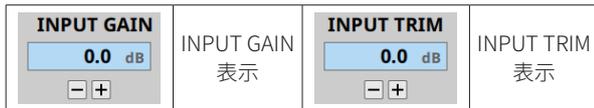
スイッチを押して、[ON] / [OFF] を切り換えます。
MONO INPUTS (1～8) 端子にファンタム電源 [+ 48V] を供給し、本体のフロントパネルの+ 48Vファンタム電源インジケータが点灯します。
(初期値: [OFF])

注意

- + 48V のファンタム電源は、19 ページ「OUTPUT タブ」の出力チャンネルのフェーダーを下げた状態で、ON/OFF を切り換えてください。
マイクによっては、大きなノイズを発生し、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になる可能性があります。
- ファンタム電源を必要としないマイクを接続している場合は、ファンタム電源を ON にしないでください。
- ファンタム電源を ON にした状態で、マイクの抜き挿しを行わないでください。
大きなノイズを発生し、本体および接続中の機器が故障する恐れがあります。
- リボンマイクの中には、ファンタム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。
疑わしい場合は、リボンマイクにファンタム電源を供給しないでください。

⑥ INPUT GAIN/TRIM 調節

入力ゲイン/トリムを調節します。
入力レベル表示が、最適 (緑色) になるように [] / [] ボタンで調節します。



- ゲイン設定範囲: 0.0 dB ~ 36.0 dB (初期値: [0.0 dB])
 - トリム設定範囲: -10.0 dB ~ 10.0 dB (初期値: [0.0 dB])
- ノイズが気になる場合は、入力感度を下げてください。

入力レベル表示

オンライン中の MONO 1 ~ 8、STEREO 1 ~ 4、USB IN の入力レベルの状態が表示されます。
入力レベルの状態が、最適 (緑色) になるよう10 ページ「入力マイク/ライン調節」で、入力感度を調節してください。



[入力レベル表示画面]

過小	最適	過大

レベル状態	理由
過小	入力レベルが小さい(-30 dBFS以下)、または入力信号が無い。
最適	入力レベルが最適。
過大	入力レベルが大きい。(-3 dBFS以上を超えている。)

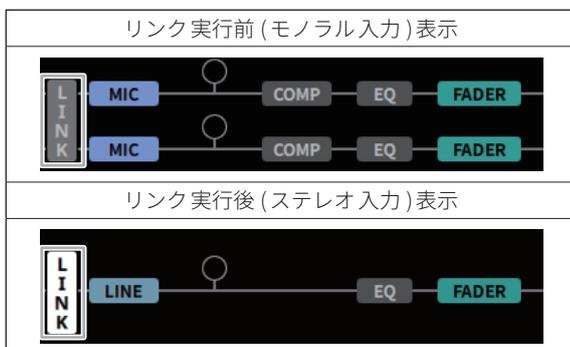
ステレオリンク

LINK アイコンを押すと、MONO 7-8 をステレオリンクさせ、ステレオ (LINE) 入力として使用することができます。



[LINK アイコン]

(初期値: [LINK OFF])
リンク実行後は、LINE 入力として動作します。
リンク解除後は、必要に応じて MIC 入力側に切り換えてください。



[リンク表示画面]

入力コンプレッサー調節

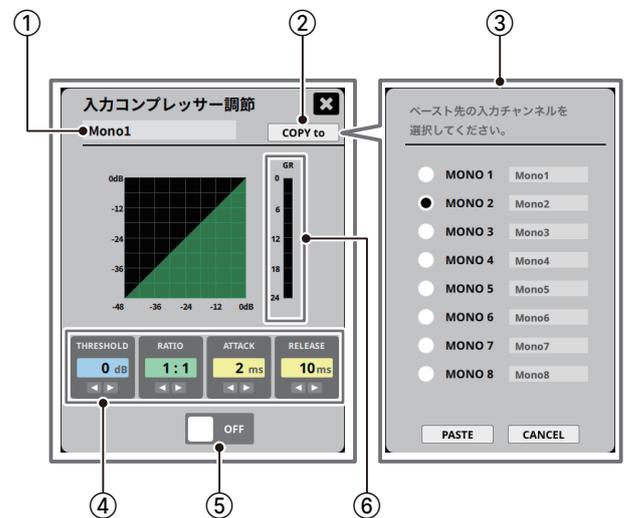
MONO 1 ~ 8 の入力音量がスレッシュホールドレベルを超えた場合に、コンプレッション (音量の変化幅を圧縮) し、音量のバラつきを抑えます。

COMP アイコンを押すと、入力コンプレッサー調節画面を表示します。



[COMP アイコン]

(初期値: [OFF])



[入力コンプレッサー調節画面]

① 入力名称表示部

接続機器名称設定で、入力した入力名称が表示されます。

② COPY to ボタン

選択中の入力チャンネルのコンプレッサー設定を他の入力チャンネルにコピーできます。

③ コピー先選択

[COPY to] ボタンを押すと、コピー先の入力チャンネルを表示します。

コピーを実行する場合は、ラジオボタンで複製先チャンネルを選択して、[PASTE] ボタンを押してください。

コピーを実行しない場合は、[CANCEL] ボタンを押してください。

④ THRESHOLD/RATIO/ATTACK/RELEASE レベル表示

● THRESHOLD

コンプレッサーをかけるレベル (スレッシュホールドレベル) を [◀▶] ボタンで調節します。

- 設定範囲: -32 dB ~ 0 dB (初期値: 0 dB)

● RATIO

入力音量の圧縮率を [◀▶] ボタンで設定します。
値が大きいほど圧縮率が高くなり、圧縮幅が増加します。

- 設定範囲: 1:1 ~ ∞:1 (初期値: 1:1)

● ATTACK

入力音量がスレッシュホールドレベルを超えた場合に、[RATIO] で設定された圧縮率までに達するまでの時間を [◀▶] ボタンで設定します。

- 設定範囲: 2 ms ~ 200 ms (初期値: 2 ms)

● RELEASE

入力音量がスレッシュホールドレベルより下がった後、圧縮が解除され通常のレベルに戻るまでの時間を [◀▶] ボタンで設定します。

- 設定範囲: 10 ms ~ 1000 ms (初期値: 10 ms)

⑤ 入力コンプレッサー ON/OFF スイッチ

コンプレッサーの ON/OFF を切り換えます。

⑥ GR (ゲインリダクションメーター)

コンプレッサーのかかり具合を確認できます。

入力イコライザー調節

MONO 1～8、STEREO 1～4 の特定の周波数帯域を増幅あるいは減衰させるエフェクターです。

各帯域のバランス調節や余分な帯域のピンポイント・カットなどに使用します。

EQアイコンを押すと、入力イコライザー調節画面を表示します。

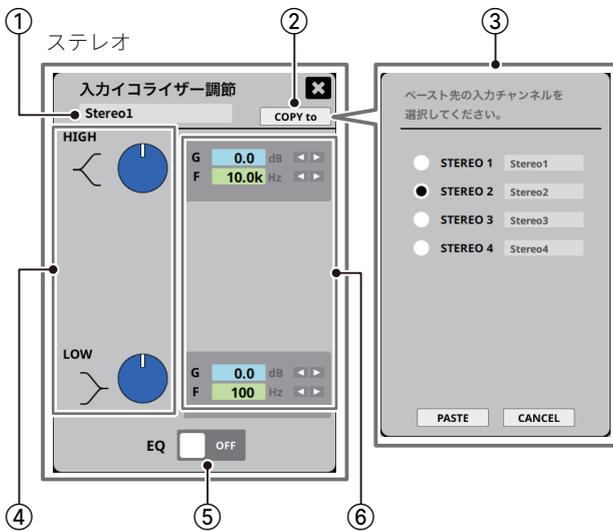
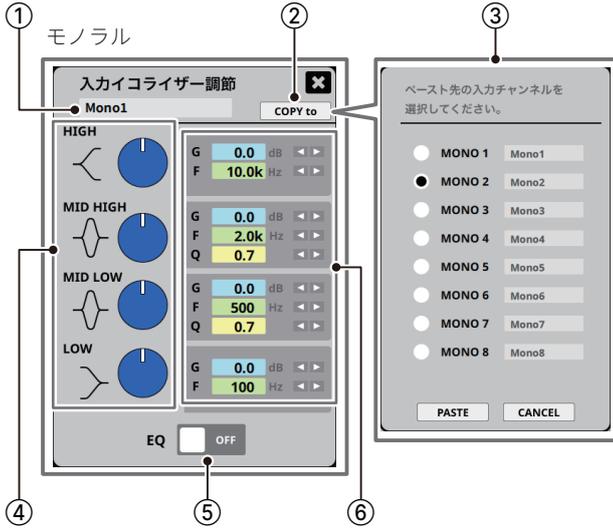
メモ

11 ページ「ステレオリンク」で MONO 7-8 をリンクさせるとステレオ入力のイコライザー画面と同じになります。



[EQアイコン]

(初期値: [OFF])



[入力イコライザー調節画面]

① 入力名称表示部

接続機器名称設定で、入力した入力名称が表示されます。

② COPY to ボタン

選択中の入力チャンネルのイコライザー設定を他の入力チャンネルにコピーできます。

③ コピー先選択

[COPY to] ボタンを押すとコピー先の入力チャンネルを表示します。

コピーを実行する場合は、ラジオボタンで複製先チャンネルを選択して、[PASTE] ボタンを押してください。

コピーを実行しない場合は、[CANCEL] ボタンを押してください。

④ ゲイン調節ボリューム

各ボリューム上でマウスを左ドラッグしながら、カーソルを上下方向へ動かすとレベル調節ができます。

- 上にドラッグ: 時計回り(+) にボリューム表示が回転します。
- 下にドラッグ: 反時計回り(-) にボリューム表示が回転します。
- 設定範囲 (各 GAIN 共通): -15 dB ~ +15 dB (初期値: 0 dB)

ボリューム名	タイプ
HIGH (モノラル/ステレオ)	ハイシェルフピング
MID HIGH (ステレオ)	ピーキングタイプ
MID LOW (ステレオ)	
LOW (モノラル/ステレオ)	ローシェルフピング

⑤ イコライザー ON/OFF スイッチ

イコライザーのON/OFFを切り換えます。

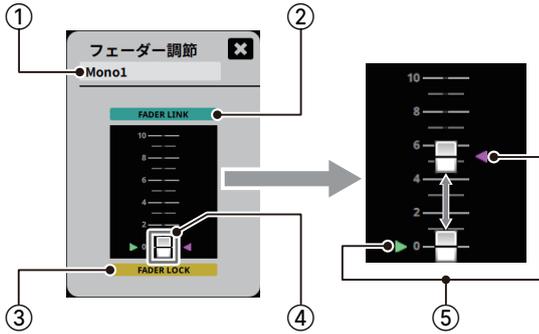
⑥ G/F/Q レベル調節

G(ゲイン)/F(中心周波数)/Q(帯域幅)の各レベル調節を[◀▶]ボタンで個別に調節できます。

ボリューム名	パラメーター	設定範囲	初期値
HIGH (モノラル/ステレオ)	G ゲイン	-15 dB ~ +15 dB	0 dB
	F 中心周波数	2 kHz ~ 18 kHz	10 kHz
MID HIGH (ステレオ)	G ゲイン	-15 dB ~ +15 dB	0 dB
	F 中心周波数	40 Hz ~ 18 kHz	2 kHz
	Q 帯域幅	0.5 ~ 12	0.7
MID LOW (ステレオ)	G ゲイン	-15 dB ~ +15 dB	0 dB
	F 中心周波数	40 Hz ~ 18 kHz	500 Hz
	Q 帯域幅	0.5 ~ 12	0.7
LOW (モノラル/ステレオ)	G ゲイン	-15 dB ~ +15 dB	0 dB
	F 中心周波数	40 Hz ~ 2 kHz	100 Hz

入力フェーダー調節

MONO 1～8、STEREO 1～4、USB IN の入力レベルを調節します。
FADER アイコンを押すと、入力フェーダー調節画面を表示します。



[入力フェーダー調節画面]

① 入力名称表示部

接続機器名称設定で、入力した入力名称が表示されます。

② FADER LINK

FADER LINK ボタンを押し、FADER LINK を OFF にすると、本体とのリンクを解除してマウスのドラッグ操作で画面上のフェーダーノブ(④)を上げ下げできます。
(本体がロック状態でも、フェーダーノブ(④)の操作が可能です。)

FADER LINK ON	FADER LINK OFF
FADER LINK	FADER LINK

[FADER LINK 画面]

(初期値: [ON])

- FADER LINK が ON の場合、パターンメモリの保存時に現在の FADER LINK の状態と本体のフェーダー位置が保存されます。
- FADER LINK が OFF の場合、パターンメモリの保存時に現在の FADER LINK の状態と画面のフェーダー位置が保存されます。

③ FADER LOCK ボタン

FADER LINK が ON の時、FADER LOCK ボタンを押し、ロックを OFF にすると、本体のフェーダー操作が可能になります。
(本体がロック状態でも、本体フェーダーで操作が可能です。)

FADER LOCK ON	FADER LOCK OFF
FADER LOCK	FADER LOCK

[FADER LOCK 画面]

(初期値: [ON])

本体誤操作による音量変化をさせたくないチャンネルは、FADER LOCK を ON にしてお使いください。

- パターンメモリの保存時に現在の FADER LOCK の状態が保存されます。

④ FADER ノブ

現在の本体フェーダー位置を表示します。
(本体がロック状態の時は、本体のフェーダー位置と一致しません。)

⑤ フェーダーマーカー

▶: パターンメモリに保存されたフェーダーノブ(④)の位置を表示します。(オフライン時では、"0"の位置になります。)

■: オンライン中の本体フェーダーノブの位置を表示します。

マトリクス設定画面

MATRIX アイコンを押すと、マトリクス画面に切り換わります。
(詳細は、19 ページ「MATRIX タブ」を参照してください。)

MONO 1～8、STEREO 1～4、USB IN、OUT 1～4、USB OUT、REC OUT の音声入出力をマトリクスで組むことが可能です。

モノラル/ステレオ切り換えボタン

OUT 1/OUT 2 の STEREO/MONO アイコンを押すと、出力方式が切り換わります。

- ステレオで使用する場合は、OUT 1A または OUT 2A に Lch(左)、OUT 1B または OUT 2B に Rch(右) が出力されます。

STEREO	ステレオで出力します。
MONO	モノラルで出力します。

[STEREO/MONO アイコン]

(初期値: [STEREO])

出カイクライザー調節

パワーアンプ、スピーカーシステム、音場などの特性に対応させる出カイクライザーです。

OUT 1～4 の EQ アイコンを押すと、OUTPUT EQ タブの出力イクライザー調節画面を表示します。

詳細は、22 ページ「OUTPUT EQ タブ」を参照してください。

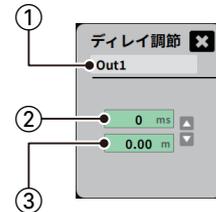
出カディレイ設定

OUT 1～4 の出力チャンネルの信号の遅延時間を調節します。

OUT 1/OUT 2 は、A/B(L/R) 同一となります。

サブスピーカーへの出力信号をメインスピーカーの出力に対し時間の遅れを発生させ、音像を前面に定位させるなどのディレイ時間を設定します。

DELAY アイコンを押すと、ディレイ調節画面を表示します。



[出力ディレイ調節画面]

① 出力名称表示部

接続機器名称設定で、入力した出力名称が表示されます。

② 遅延時間表示

標準からの遅延時間を表示します。

[◀▶] ボタンで増減の設定します。

③ 到達距離表示

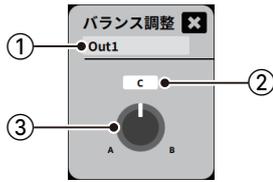
設定した遅延時間を音速 (330 m/s) で距離換算した値が自動で表示されます。

2 個のスピーカーの配置距離の目安となります。

端子	パラメーター	設定範囲	初期値
OUT 1～4	遅延時間	0～300 msec (1 msec step)	0 msec
	到達距離	99.00 m (0.33 m step)	0.00 m

バランス調節

OUT 1A/1BとOUT 2A/2Bの出力信号のバランスを設定できます。BAL アイコンを押すと、バランス調節画面を表示します。



[出力バランス調節画面]

① 出力名称表示部

接続機器名称設定で、入力した出力名称が表示されます。

② レベル表示

チャンネルA/Bのレベルを表示します。

- "C" は、センターです。
- "A" の数値が大きい程、左方向にバランスが変化します。
- "B" の数値が大きい程、右方向にバランスが変化します。
- 設定範囲: A50 ~ C ~ B50 (初期値: C)

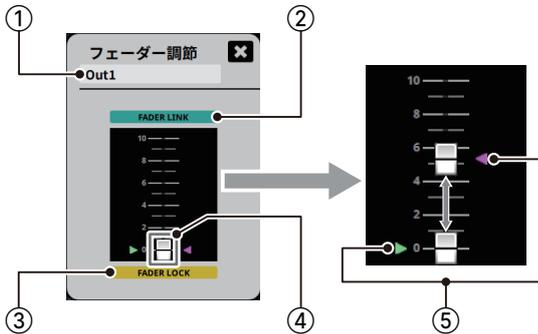
③ バランス調節ボリューム

ボリューム上でマウスを左ドラッグしながら、カーソルを上下方向へ動かすとチャンネルA/Bのバランス調節ができます。

- 上にドラッグ: 時計回り(B側)にボリューム表示が回転します。
- 下にドラッグ: 反時計回り(A側)にボリューム表示が回転します。

出力フェーダー調節

OUT 1 ~ 4、USB OUT の出力レベルを調節します。FADER アイコンを押すと、出力フェーダー調節画面を表示します。



[出力フェーダー調節画面]

① 出力名称表示部

接続機器名称設定で、入力した出力名称が表示されます。

② FADER LINK

FADER LINK ボタンを押し、FADER LINK を OFF にすると、本体とのリンクを解除してマウスのドラッグ操作で画面上のフェーダーノブ(④)を上げ下げできます。

(本体がロック状態でも、フェーダーノブ(④)の操作が可能です。)

FADER LINK ON 表示	FADER LINK OFF 表示
FADER LINK	FADER LINK

[FADER LINK画面]

(初期値: [ON])

- FADER LINK が ON の場合、パターンメモリーの保存時に現在の FADER LINK の状態と本体のフェーダー位置が保存されます。
- FADER LINK が OFF の場合、パターンメモリーの保存時に現在の FADER LINK の状態と画面のフェーダー位置が保存されます。

③ FADER LOCK ボタン

FADER LINK が ON の時、FADER LOCK ボタンを押し、FADER LOCK を OFF にすると、本体のフェーダーで操作が可能になります。(本体がロック状態でも、本体のフェーダーで操作が可能です。)

FADER LOCK ON 表示	FADER LOCK OFF 表示
FADER LOCK	FADER LOCK

[FADER LOCK画面]

(初期値: [ON])

本体誤操作による音量変化をさせたくないチャンネルは、FADER LOCK を ON にしてお使いください。

- パターンメモリーの保存時に現在の FADER LOCK の状態が保存されます。

④ FADER ノブ

現在の本体フェーダー位置を表示します。

(本体がロック状態の時は、本体のフェーダー位置と一致しません。)

⑤ フェーダーマーカー

■: パターンメモリーに保存されたフェーダーノブ(④)の位置を表示します。(オフライン時では、「0」の位置になります。)

■: オンライン中の本体フェーダーノブの位置を表示します。

メモ

フェーダーが「0」になっていて外部コントローラーが接続されている場合、その外部コントローラーからミュート設定にされている可能性があります。

その場合には FADER LINK を ON にする、またはフェーダーを操作することでミュートが解除されます。

出力コンプレッサー調節

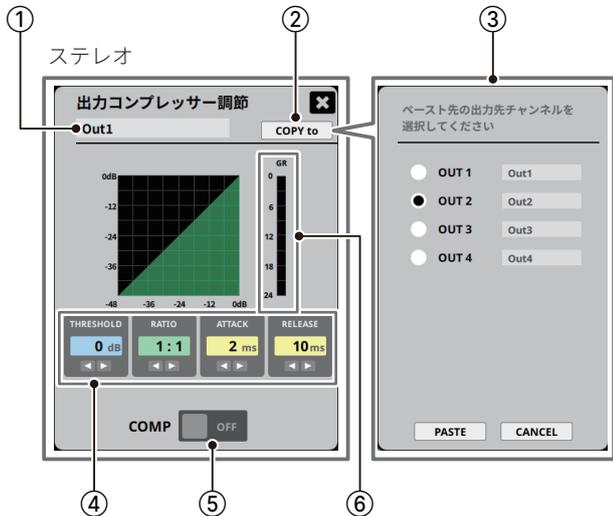
OUT 1～4 の回路を突発的な過大出力による歪みを防ぎ、アンプ、スピーカーなどを保護します。

COMP アイコンを押すと、出力コンプレッサー調節画面を表示します。

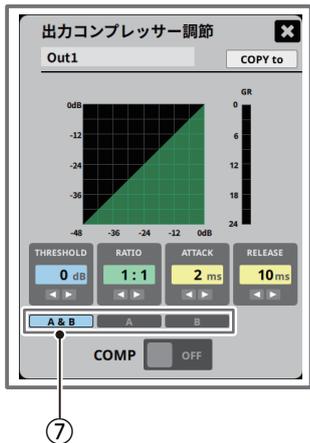


[COMP アイコン]

(初期値: [OFF])



モノラル



[出力コンプレッサー調節画面]

① 出力名称表示部

接続機器名称設定で、入力した出力名称が表示されます。

② COPY to ボタン

選択中の出力チャンネルのコンプレッサー設定を他の出力チャンネルにコピーできます。

③ コピー先選択

[COPY to] ボタンを押すと、コピー先の出力チャンネルを表示します。

コピーを実行する場合は、ラジオボタンで複製先チャンネルを選択して、[PASTE] ボタンを押してください。

コピーを実行しない場合は、[CANCEL] ボタンを押してください。

④ THRESHOLD/RATIO/ATTACK/RELEASE レベル表示

● THRESHOLD

コンプレッサーをかけ始めるレベル(スレッシュホールドレベル)を[◀▶]ボタンで調節します。

- 設定範囲: -32 dB ~ 0 dB (初期値: 0 dB)

● RATIO

出力音量の圧縮率を[◀▶]ボタンで設定します。値が大きいほど圧縮率が高くなり、圧縮幅が増加します。

- 設定範囲: 1:1 ~ ∞:1 (初期値: 1:1)

● ATTACK

出力音量がスレッシュホールドレベルを超えた場合に、[RATIO]で設定された圧縮率までに達するまでの時間を[◀▶]ボタンで設定します。

- 設定範囲: 2 ms ~ 200 ms (初期値: 2 ms)

● RELEASE

出力音量がスレッシュホールドレベルより下がった後、圧縮が解除され通常のレベルに戻るまでの時間を[◀▶]ボタンで設定します。

- 設定範囲: 10 ms ~ 1000 ms (初期値: 10 ms)

⑤ 出力コンプレッサー ON/OFF スイッチ

コンプレッサーのON/OFF を切り換えます。

⑥ GR (ゲインリダクションメーター)

コンプレッサーのかかり具合を確認できます。

⑦ OUT 1A/1B、OUT 2A/2B 選択ボタン

13 ページ「モノラル/ステレオ切り換えボタン」で出力チャンネルを MONO に切り換えると、OUT 1A/1B と OUT 2A/2B を同時 ([A & B]) に設定するか、または OUT 1A または OUT 2A に L ch([A])、OUT 1B または OUT 2B に R ch([B]) を個別に設定するか選択できます。

(初期値: [A & B])

A & B	<input checked="" type="radio"/> A & B	<input type="radio"/> A	<input type="radio"/> B
A	<input type="radio"/> A & B	<input checked="" type="radio"/> A	<input type="radio"/> B
B	<input type="radio"/> A & B	<input type="radio"/> A	<input checked="" type="radio"/> B

[A/B 選択画面]

- [A] または [B] から [A & B] に切り換えたときは、[A] と [B] が同一に設定されます。

この設定は、20 ページ「OSC (オシレーター)」にも共有され、同一に設定されます。

同一設定される前に確認メッセージが表示されます。



[確認メッセージ画面]

同一で良い場合は、[OK] ボタンを押してください。

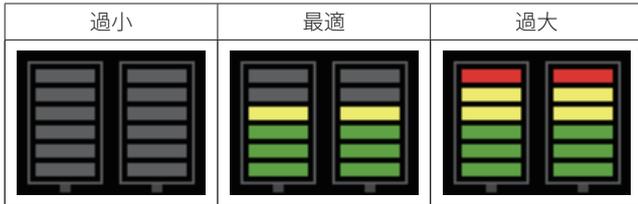
同一にしたい場合は、[CANCEL] ボタンを押してください。

OUT1/ OUT2 出力レベル表示

オンライン中のOUT 1A/1B、OUT 2A/2Bの出力レベルの状態が表示されます。
出力レベルの状態が、最適(緑色)になるよう14ページ「出力フェーダー調節」で、出力レベルを調節してください。



[出力レベル表示画面]



レベル状態	理由
過小	出力レベルが小さい(-30 dBu以下)、または入力信号が無い。
最適	出力レベルが最適。
過大	出力レベルが大きい。(+21 dBu以上を超えている。)

OUT3/ OUT4/ USB 出力レベル表示

オンライン中のOUT3、OUT4、USB OUTの出力レベルの状態が表示されます。
出力レベルの状態が、最適(緑色)になるよう14ページ「出力フェーダー調節」で、出力レベルを調節してください。



[出力レベル表示画面]



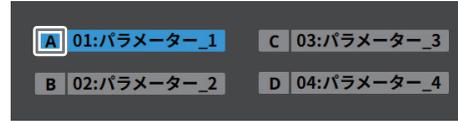
レベル状態	理由
過小	出力レベルが小さい(-30 dBu以下)、または入力信号が無い。
最適	出力レベルが最適。
過大	出力レベルが大きい。(+21 dBu以上を超えている。)

パターンメモリー切り換えボタン／パターン名称表示

パターンメモリー切り換えボタン(A~D)

34ページ「パターン設定タブ」で保存したパターンメモリーを本体フロントパネルのMEMORYスイッチに、A~Dのパターンを割り当てることができます。

A~Dの各ボタンを押すと、パターンメモリーを呼び出します。選択中のボタン、および名称表示欄がハイライト表示になります。



[パターンメモリー切り換えボタン]

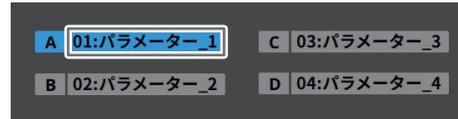
- オンライン中は、本体のMEMORYスイッチのインジケータも選択したA~Dに切り換わります。
- 各ボタンへのパターンメモリーの割り当ては、補助設定タブの28ページ「パターン切り換えスイッチ割り当て設定」でパターン番号を選択して行います。

メモ

- 本アプリケーションをご使用時は、本体のMEMORYスイッチの操作を行わないようにしてください。
画面上のパターンメモリー切り換えボタンで、選択してください。

パターン名称表示(A~D)

パターンメモリー切り換えボタンに設定したパターンの番号と名称を表示します。



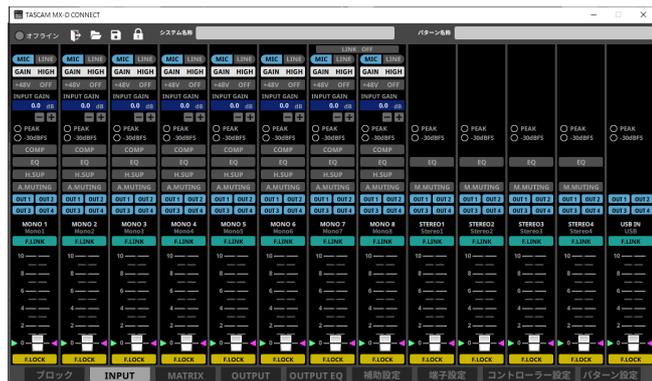
[パターン名称表示画面]

01	: Pare_1
(パターン番号)	:(パターン名称)

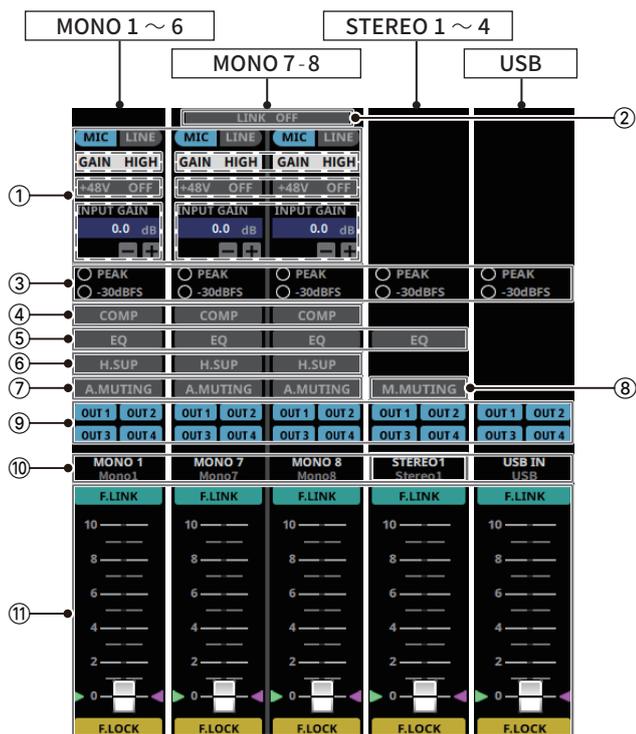
パターン名称の設定は、34ページ「パターン設定タブ」でパターン番号を選択し、「保存」ボタンを押すと、9ページ「パターン名称入力/表示」で入力した名称が反映されます。

INPUT タブ

本体の入力部の設定を行います。



[INPUT画面]



[INPUT画面詳細]

① MIC/LINE 選択 (MONO 1 ~ 8)

各モノラル入力チャンネルのMIC/LINEの選択と入力感度調節が行えます。(入力感度は、 \square/\boxplus ボタンで調節します。)



(初期値:[MIC])

- MIC 選択時は、下記の選択・入力感度調節が行えます。

GAIN	HIGH/LOW	初期値 [HIGH]
+ 48V (*)	ON/OFF	初期値 [OFF]
INPUT GAIN	0.0 dB ~ 36.0 dB	初期値 [0.0 dB]

- LINE 選択時は、下記の調節が行えます。

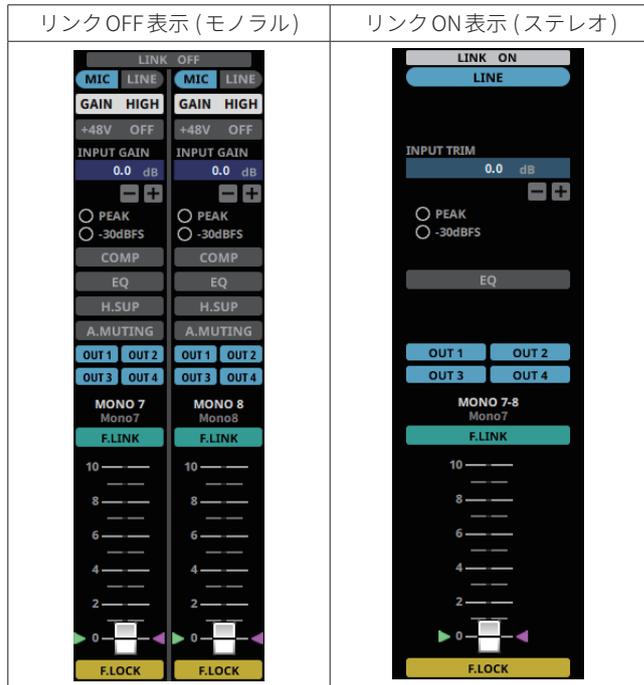
INPUT TRIM	-10.0 dB ~ 10.0 dB	初期値 [0.0 dB]
------------	--------------------	--------------

* + 48V のファンタム電源をご使用の際は、10 ページ「入力マイク

ノライン調節」のファンタム電源の注意事項を必ず、お読みください。

② LINK ON/OFF (MONO 7/MONO 8)

LINK ON/OFF アイコンを押すと、MONO 7-8 をステレオリンクさせ、ステレオ (LINE) 入力として使用することができます。



[ステレオリンク表示]

(初期値:[モノラル])

リンク実行後の MIC/LINE 選択 (①) は、LINE として動作します。リンク解除後は、必要に応じて MIC 側に切り換えてください。

③ 入力レベル表示

オンライン中の MONO 1 ~ 8、STEREO 1 ~ 4、USB IN の入力レベルの状態が表示されます。入力レベルの状態が、最適 (緑色) になるよう INPUT GAIN/INPUT TRIM (①) の \square/\boxplus ボタンで調節します。

過小	最適	過大
\circ PEAK \circ -30dBFS	\circ PEAK \bullet -30dBFS	\bullet PEAK \bullet -30dBFS

[入力レベル表示画面]

レベル状態	理由
過小	入力レベルが小さい(-30 dBFS以下)、または入力信号が無い。
最適	入力レベルが最適。
過大	入力レベルが大きい。(-3 dBFS以上を超えている。)

④ 入力コンプレッサー (MONO 1 ~ 8)

ブロックタブの入力コンプレッサー調節と同じ機能です。



(初期値:[OFF])

- 操作については、11 ページ「入力コンプレッサー調節」をお読みください。

⑤ 入力コライザー (MONO 1 ~ 8、STEREO 1 ~ 4)

ブロックタブの入力コライザー調節と同じ機能です。



(初期値:[OFF])

- 操作については、12 ページ「入力コライザー調節」をお読みください。

⑥ H.SUP (MONO 1～8) ON/OFF

H.SUP (ハウリングサプレッサー)

自動計測を行うと、音場の残響特性、伝送特性など固有のハウリング周波数や抑圧レベルを分析して、プリセットフィルター(4バンド)を設定し、ハウリングを抑制します。システム使用中にハウリングが発生すると、アクティブフィルター(2バンド)が自動的にハウリングを抑制します。



(初期値:[OFF]:プリセットフィルター未設定)

メモ

ハウリングサプレッサーが[ON]の場合、プリセットフィルター未設定でもアクティブフィルターは動作しますので、正弦波やテストトーンなどを使用される場合は、[OFF]にしてください。

- ハウリングサプレッサーの測定は、補助設定タブで行います。
- 操作方法については、27 ページ「ハウリングサプレッサー測定」を参照してください。

⑦ A.MUTING (MONO 1～8) ON/OFF

A.MUTING (アナウンスミュート)

ダッキングの動作をします。

指定した MONO 1～8 に信号(音声など)を入力すると、同じ出力系統にアサインされている STEREO 1～4 信号の音量を自動的にミュート(減衰)させ、目的のアナウンスを明瞭に放送することができます。

指定した MONO 1～8 の信号がなくなると、自動的に STEREO 1～4 信号の音量が元に戻ります。

- ミュートングレベル/ホールド時間の設定は、26 ページ「補助設定タブ」で行います。



(初期値:[OFF])

⑧ M.MUTING (STEREO 1～4) ON/OFF

M.MUTING (ミュージックミュート)

指定した STEREO 1～4 に信号(音楽など)を入力すると、同じ出力系統にアサインされている他の STEREO 1～4 に入力されていた信号を自動的にミュートします。

複数のチャンネルを ON にしたときは、チャンネル番号の小さい方が優先されます。

指定した STEREO 1～4 の信号がなくなると、ミュートされていた信号は自動的に元の音量に戻ります。

- ミュートングホールド時間の設定は、26 ページ「補助設定タブ」で行います。



(初期値:[OFF])

⑨ MATRIX設定

各入力(MONO 1～8、STEREO 1～4、USB IN)の出力先(OUT 1～4)を選択します。

- OUT 1～4 のアイコンを押す度に、ON/OFF します。
- マトリクスミキシングレベル調節は、19 ページ「MATRIXタブ」で行います。



(初期値:[ON])

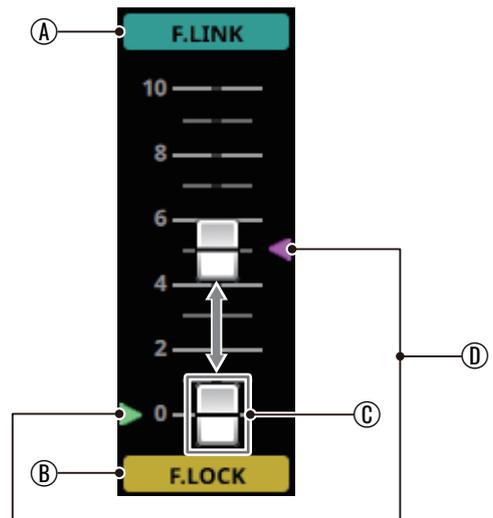
⑩ 入力名称表示部

接続機器名称設定で、入力した入力名称が表示されます。

- 入力方法については、10 ページ「接続機器名称設定」を参照してください。

⑪ 入力フェーダー調節

MONO 1～8、STEREO 1～4、USB IN の入力レベルを調節します。



[フェーダー画面]

① F.LINK (フェーダーリンク)

F.LINK ボタンを押すと、本体とのリンクを解除してマウスのドラッグ操作で画面上のフェーダーノブ(C)を上げ下げできます。(本体がロック状態でも、フェーダーノブ(C)の操作が可能です。)



(初期値:[ON])

② F.LOCK (フェーダーロック)

F.LINK が ON の時、F.LOCK ボタンを押して、ロックを OFF にすると、本体のフェーダー操作が可能になります。(本体がロック状態でも、本体フェーダーで操作が可能です。)



(初期値:[ON])

本体誤操作による音量変化をさせたくないチャンネルは、FADER LOCK を ON にしてお使いください。

③ FADER ノブ

現在の本体フェーダー位置を表示します。

(本体がロック状態の時は、本体のフェーダー位置と一致しません。)

④ フェーダーマーカー

■: パターンメモリーに保存されたフェーダーノブの位置を表示します。(オフライン時では、「0」の位置になります。)

■: オンライン中の本体フェーダーノブの位置を表示します。

- 詳細は、13 ページ「入力フェーダー調節」をお読みください。

MATRIX タブ

各出力 (OUT 1 ~ 4) に対して、アサインする入力 (MONO 1 ~ 8、STEREO 1 ~ 4、USB IN) を選択します。

メモ

- USB IN はアナログ入力同様、OUT 4 系統すべてとマトリクスを組むことが可能です。
- REC OUT、USB OUT は、OUT 4 系統のいずれかとバスを共有します。
- REC OUT、USB OUT から出力される信号は、選択した OUT 1 ~ 4 の信号を加算したものが出力されます。



[MATRIX画面]

(初期値: OUT 1 ~ 4 は、すべて [ON]、REC OUT および USB OUT は、OUT 1 のみ [ON])

マトリクス設定



[マトリクス設定画面]

① マトリクス ON/OFF

入力信号の出力先を設定します。

画面上の アイコンを押す度に、ON/OFF します。

	ON 表示	その出力系統に信号が出力されます。
	OFF 表示	信号は出力されません。

注意

USB OUT に使用する出力に対して、USB IN の入力信号を ON にした場合、音声が入ループしてしまう可能性があります。

- 下図破線内の (ON) アイコンを (OFF) アイコンにしてください。



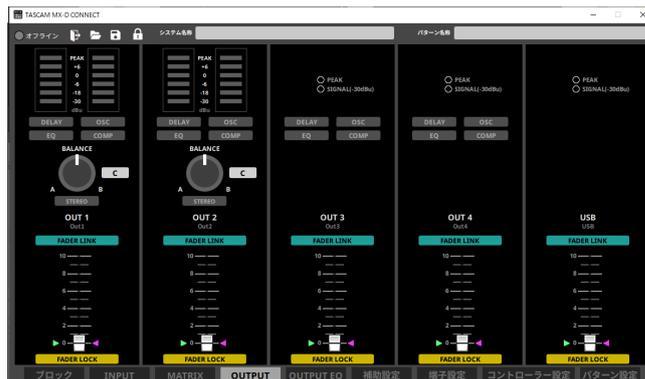
② マトリクスミキシングレベル表示

マトリクス [ON] 時のミキシングレベルを [▲▼] ボタンで調節します。

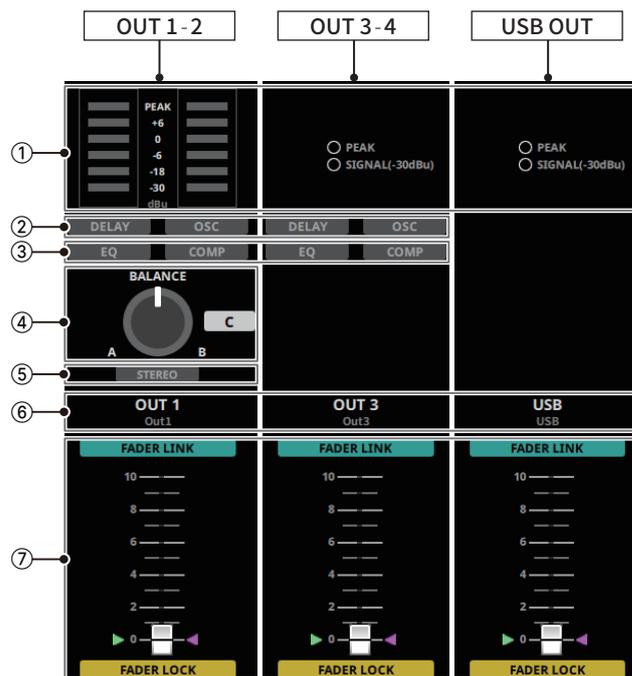
- 設定範囲: -20.0 dB ~ 0 dB (初期値: 0 dB)

OUTPUT タブ

本体の出力の設定を行います。



[OUTPUT画面]



[OUTPUT画面詳細]

① 出力レベル表示

オンライン中の OUT 1 ~ 4、USB OUT の出力レベルの状態が表示されます。

出力レベルの状態が、最適 (緑色) になるよう出力フェーダー調節 (⑦) で、出力レベルを調節してください。

過小	最適	過大
OUT 1-2		
OUT 3-4、USB OUT		

[出力レベル表示画面]

レベル状態	理由
過小	出力レベルが小さい(-30 dBu 以下)、または出力信号が無い。
最適	出力レベルが最適。
過大	出力レベルが大きい。(+21 dBu 以上を超えている。)

② 出力ディレイ調節／オシレーター設定

DELAY (ディレイ)

OUT 1～4 の出力チャンネルの信号の遅延時間を調節します。
 OUT 1-2 は、A/B(L/R) 同一となります。
 サブスピーカーへの出力信号をメインスピーカーの出力に対し時間の遅れを発生させ、音像を前面に定位させるなどのディレイ時間を設定します。

DELAY アイコンを押すと、ディレイ調節画面を表示します。



(初期値: [OFF])

- ディレイ調節で遅延時間を0 msec以上にすると自動的にON表示になります。
- ブロックタブの出力ディレイ調節と同じ機能です。操作については、13 ページ「出力ディレイ設定」をお読みください。

OSC (オシレーター)

OSC を ON にすると、OUT 1～4 の出力チャンネルへ選択したテスト信号が出力されます。
 スピーカーの検聴・調節などに利用できます。
 テスト信号の種類は正弦波、ホワイトノイズ、ピンクノイズを選択できます。

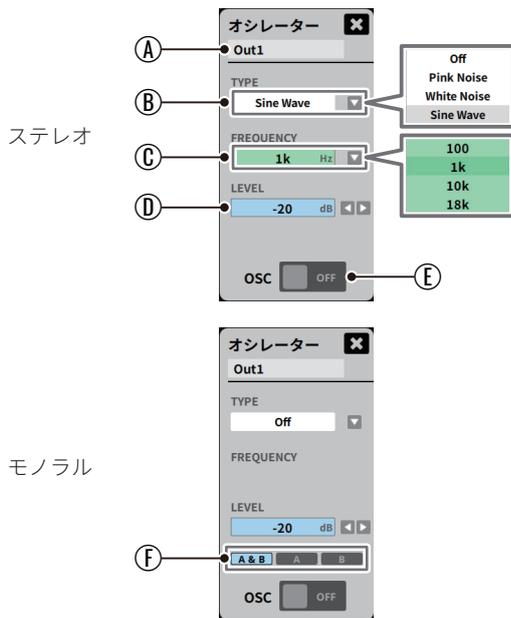
メモ

テスト信号の[種類、周波数、出力レベル]は、すべての出力チャンネルに共通です。
 各チャンネルで異なる設定にはできません。

OSC アイコンを押すと、オシレーター設定画面を表示します。



(初期値: [OFF])



[オシレーター調節画面]

① 出力名称表示部

接続機器名称設定で、入力した出力名称が表示されます。

② TYPE

次のテスト信号[ミュート、ピンクノイズ、ホワイトノイズ、正弦波]を選択することができます。
 [▼]ボタンを押して、表示したテスト信号から選択します。

Off	ミュート
Pink Noise	ピンクノイズ
White Noise	ホワイトノイズ
Sine Wave	正弦波

(初期値: [Off (ミュート)])

③ FREQUENCY

テスト信号の種類を[Sine Wave]を選択した場合、下記の周波数を選択できます。

[▼]ボタンを押して、表示した周波数から選択します。

- 100 Hz / 1 kHz / 10 kHz / 18 kHz
(初期値: [1 kHz])

④ LEVEL

テスト信号の出力レベルを[◀▶]ボタンで調節します。

- 設定範囲: -36 dB ~ 0 dB (初期値: -20 dB)

⑤ OSC ON/OFF スイッチ

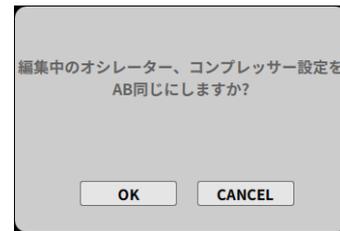
オシレーターのON/OFF を切り換えます。

⑥ OUT 1A/1B、OUT 2 A/2B 選択ボタン

モノラル/ステレオ切り換えボタン(*)で、OUT 1A/1B と OUT 2A/2B を MONO に切り換えると、OUT 1A/1B と OUT 2A/2B を同時([A & B])に設定するか、OUT 1A または OUT 2A に L ch([A])、OUT 1B または OUT 2B に R ch([B]) を個別に設定するか選択できます。
 (初期値: [A & B])

* モノラル/ステレオ切り換えボタンについては、13 ページ「モノラル/ステレオ切り換えボタン」、21 ページ「⑤ モノラル/ステレオ切り換えボタン」を参照してください。

- [A] または [B] から [A & B] に切り換えたときは、[A] と [B] が同一に設定されます。
 この設定は、15 ページ「出力コンプレッサー調節」にも共有され、同一に設定されます。
 同一設定される前に確認メッセージが表示されます。



[確認メッセージ画面]

同一で良い場合は、[OK] ボタンを押してください。
 同一にしたくない場合は、[CANCEL] ボタンを押してください。

③ 出力イコライザー調節／出力コンプレッサー調節

EQ (イコライザー)

パワーアンプ、スピーカーシステム、音場などの特性に対応させる出力イコライザーです。

OUT 1～4 の EQ アイコンを押すと、OUTPUT EQ タブの出力イコライザー調節画面を表示します。



(初期値: [OFF])

- 詳細は、22 ページ「OUTPUT EQ タブ」を参照してください。

COMP (コンプレッサー)

OUT 1～4 の回路を突発的な過大出力による歪みを防ぎ、アンプ、スピーカーなどを保護します。

COMP アイコンを押すと、出力コンプレッサー調節画面を表示します。

ブロックタブの出力コンプレッサー調節と同じ機能です。

- 操作については、15 ページ「出力コンプレッサー調節」をお読みください。



(初期値: [OFF])

④ バランス調節

OUT 1A/1B と OUT 2A/2B の、出力信号のバランスを設定できます。

チャンネルA/B のレベルを表示します。

- "C" は、センターです。

"A" の数値が大きい程、左方向にバランスが変化します。

"B" の数値が大きい程、右方向にバランスが変化します。

設定範囲：A50～C～B50 (初期値：C)

ブロックタブのバランス調節と同じ機能です。

- 操作については、14 ページ「バランス調節」をお読みください。

⑤ モノラル/ステレオ切り換えボタン

OUT 1-2 の STEREO/MONO アイコンを押すと、出力方式が切り換わります。

- ステレオで使用する場合は、OUT 1A または OUT 2A に Lch(左)、OUT 1B または OUT 2B に Rch(右) が出力されます。

[STEREO/MONO アイコン]

STEREO	ステレオで出力します。
MONO	モノラルで出力します。

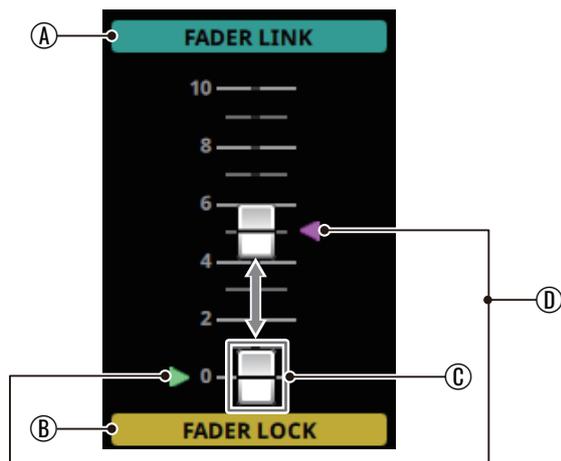
(初期値：[STEREO])

⑥ 出力名称表示部

接続機器名称設定で、入力した出力名称が表示されます。

⑦ 出力フェーダー調節

OUT 1～4、USB OUT の出力レベルを調節します。



[フェーダー画面]

① FADER LINK(フェーダーリンク)

FADER LINK ボタンを押すと、本体とのリンクを解除してマウスのドラッグ操作で、画面上のフェーダーノブを上げ下げできます。

(本体がロック状態でも、フェーダーノブの操作が可能です。)

FADER LINK	OFF 表示	FADER LINK	ON 表示
------------	--------	------------	-------

(初期値：[ON])

② FADER LOCK (フェーダーロック)

FADER LINK が ON の時、FADER LOCK ボタンを押し、ロックを OFF にすると、本体のフェーダー操作が可能になります。

(本体がロック状態でも、本体フェーダーで操作が可能です。)

FADER LOCK	OFF 表示	FADER LOCK	ON 表示
------------	--------	------------	-------

(初期値：[ON])

本体誤操作による音量変化をさせたくないチャンネルは、FADER LOCK を ON にしてお使いください。

⑧ FADER ノブ

現在の本体フェーダー位置を表示します。

(本体がロック状態の時は、本体のフェーダー位置と一致しません。)

⑨ フェーダーマーカー

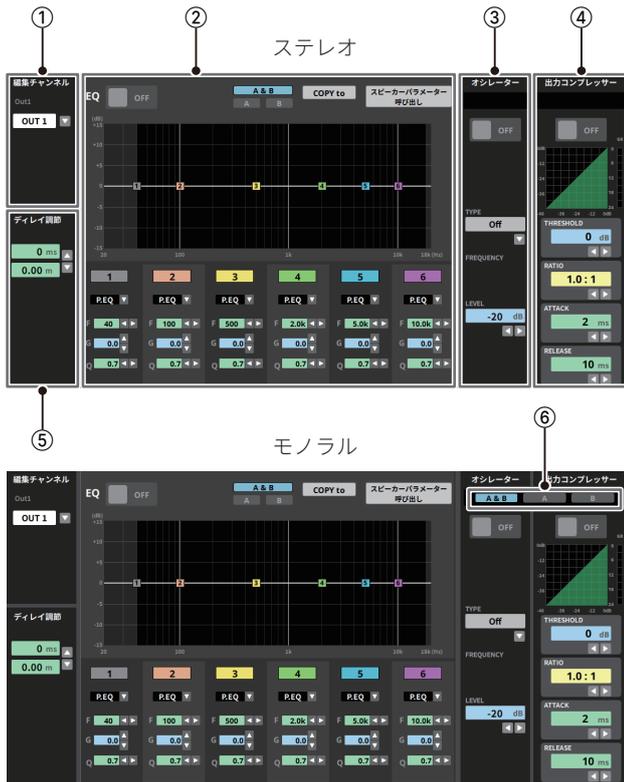
■: パターンメモリーに保存されたフェーダーノブの位置を表示します。(オフライン時では、"0" の位置になります。)

■: オンライン中の本体フェーダーノブの位置を表示します。

- 詳細は、14 ページ「出力フェーダー調節」をお読みください。

OUTPUT EQ タブ

出カイコライザー部の設定を行います。

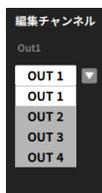


[出カイコライザー関係画面]

① 編集チャンネル選択

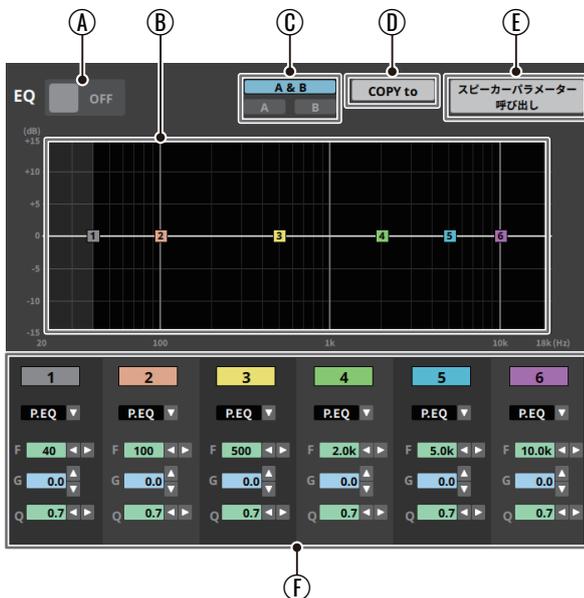
信号の出力先を設定します。

[▼] ボタンを押して、表示先 (OUT 1 ~ 4) から選択します。



[編集チャンネル選択画面]

② 出カイコライザー調節



[出カイコライザー画面詳細]

Ⓐ 出カイコライザー ON/OFF ボタン

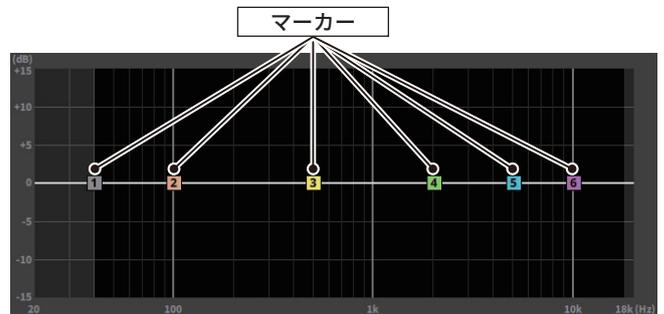
イコライザーのON/OFF を切り換えます。

ON にすると、**ブロックタブ**、**OUTPUT タブ** の対応する出力チャンネルの **EQ アイコン** も ON 表示に切り換わります。
(初期値: [OFF])

Ⓑ EQ グラフ表示

現在のイコライザー設定の周波数特性を表示します。

(EQ グラフは、イコライザーがオフのときも表示されます。)

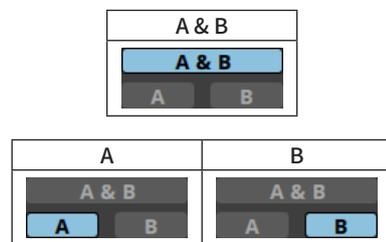


[EQ グラフ画面]

- EQ グラフ画面の 1 ~ 6 のマーカーは、同じ色のマーカーがグラフ下の 1 ~ 6 バンドパラメーター調節 (Ⓔ) に対応しています。
- 1 ~ 6 のマーカーは、EQ グラフ画面上でドラッグすると、任意の方向に移動できます。
マーカーに連動して、6 バンドイコライザー調節 (Ⓔ) の F (周波数) と G (ゲイン) の値が変化します。
また、**スピーカーパラメーター呼び出し** ボタン (Ⓔ) でスピーカーを選択した場合に、1 ~ 6 の EQ グラフ表示もスピーカーのイコライザー特性に合わせて変化します。

Ⓒ OUT 1A/1B、OUT 2A/2B 選択ボタン

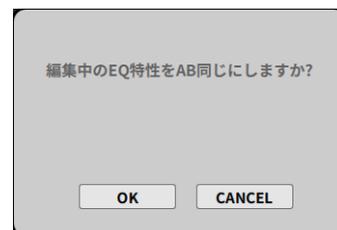
編集チャンネル (①) で **OUT 1**、または **OUT 2** を選択した際に、**OUT 1A/1B** と **OUT 2A/2B** を同時 ([A & B]) に設定するか、または個別 ([A]、[B]) に行うかを設定できます。



[A/B 選択画面]

(初期値: [A & B])

- [A] または [B] から [A & B] に切り換えたときは、[A] と [B] が同一に設定されます。
同一設定される前に確認メッセージが表示されます。



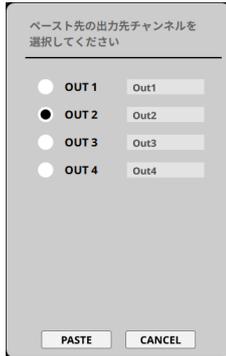
[確認メッセージ画面]

同一で良い場合は、[OK] ボタンを押してください。
同一にたくない場合は、[CANCEL] ボタンを押してください。

⑩ COPY to ボタン

選択中の出力チャンネルのイコライザー設定を他の出力チャンネルにコピーできます。

[COPY to] ボタンを押すと、コピー先の出力チャンネルを表示します。



[COPY to 画面]

コピーを実行する場合は、ラジオボタンで複製先チャンネルを選択して、[PASTE] ボタンを押してください。

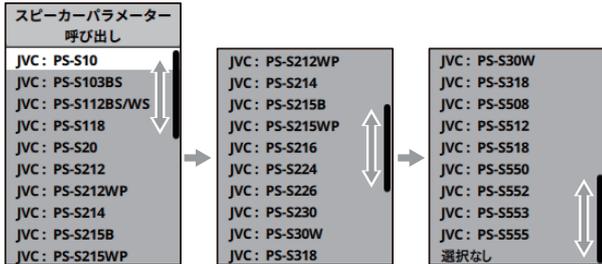
コピーを実行しない場合は、[CANCEL] ボタンを押してください。

⑪ スピーカーパラメーター呼び出し ボタン

スピーカーの特性に合わせたイコライザー設定を選択することができます。

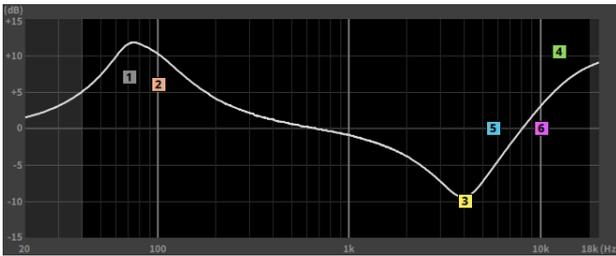
スピーカーパラメーター呼び出し ボタンを押すと、スピーカーのリストが表示されます。

(初期値: [選択なし])



[スピーカーリスト画面]

- リストの右横のスクロールバーを上下にスクロールして、リスト内から必要なスピーカーを選択してください。選択したスピーカーのイコライザー特性が設定されます。



[EQ グラフ画面 (選択例: PS-S118)]

- リストから[選択なし]を設定した場合、フラット特性のイコライザーパラメーターが設定されます。

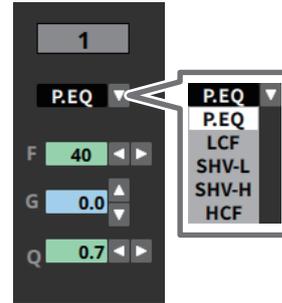
[EQ グラフ画面 (選択例: 選択なし)]



⑫ 6 バンドイコライザー調節

1 ~ 6 のバンドのイコライザー特性を個別に設定できます。

- EQ グラフ表示 (⑩) でマーカーをドラッグで移動した際や、スピーカーパラメーター呼び出し ボタン (⑪) でスピーカーを選択した場合に、EQ グラフ表示も特性に合わせてグラフカーブが変化します。



[バンドイコライザー設定画面]

- イコライザー特性選択

[▼] ボタンを押して、表示先から選択します。

(初期値: [P.EQ])

P.EQ	ピーキングタイプ
LCF	ローカットフィルター
SHV-L	ローシェルピング
SHV-H	ハイシェルピング
HCF	ハイカットフィルター

- F/G/Q レベル調節

イコライザー特性によって、F (中心周波数)/Q (帯域幅) の各レベル調節を[◀▶] ボタンで、G (ゲイン) レベル調節を[▲▼] ボタンで個別に調節できます。

形式	パラメーター	設定範囲
P.EQ	F 中心周波数	40 Hz ~ 18 kHz
	G ゲイン	-15 dB ~ +15 dB
	Q 帯域幅	0.5 ~ 12
LCF	F 中心周波数	40 Hz ~ 18 kHz
SHV-L	F 中心周波数	40 Hz ~ 18 kHz
	G ゲイン	-15 dB ~ +15 dB
SHV-H	F 中心周波数	40 Hz ~ 18 kHz
	G ゲイン	-15 dB ~ +15 dB
HCF	F 中心周波数	40 Hz ~ 18 kHz

6 バンドの F/G/Q レベル調節の初期値

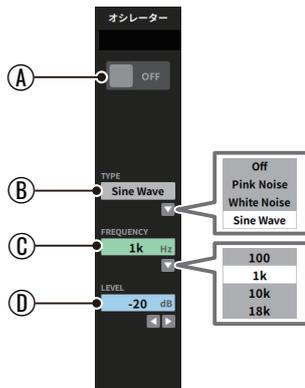
形式	F	G	Q
	中心周波数	ゲイン	帯域幅
1 バンド	40 Hz	すべて 0.0 dB	すべて 0.7
2 バンド	100 Hz		
3 バンド	500 Hz		
4 バンド	2 kHz		
5 バンド	5 kHz		
6 バンド	10 kHz		

③ オシレーター設定

オシレーターをONにすると、OUT 1～4の出力チャンネルへ選択したテスト信号が出力されます。スピーカーの検聴・調節などに利用できます。テスト信号の種類は正弦波、ホワイトノイズ、ピンクノイズを選択できます。OUTPUTタブの20ページ「OSC (オシレーター)」と同じ機能です。

メモ

- テスト信号の[種類、周波数、出力レベル]は、すべての出力チャンネルに共通です。各チャンネルで異なる設定にはできません。



[オシレーター調節画面]

① OSC ON/OFF ボタン

オシレーターのON/OFFを切り換えます。ONにすると、OUTPUTタブの対応する出力チャンネルのOSCアイコンもON表示に切り換わります。(初期値:[OFF])

② TYPE

次のテスト信号を選択することができます。[▼]ボタンを押して、表示したテスト信号から選択します。

Off	ミュート
Pink Noise	ピンクノイズ
White Noise	ホワイトノイズ
Sine Wave	正弦波

(初期値:[Off (ミュート)])

③ FREQUENCY

テスト信号の種類を[Sine Wave]を選択した場合、下記の周波数を選択できます。[▼]ボタンを押して、表示した周波数から選択します。

- 100 Hz / 1 kHz / 10 kHz / 18 kHz
- (初期値:[1 kHz])

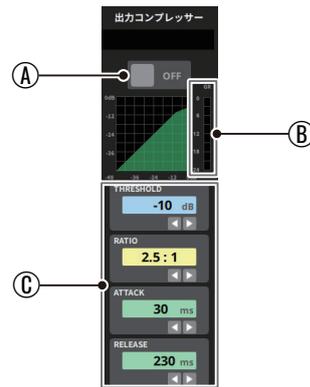
④ LEVEL

テスト信号の出力レベルを[◀▶]ボタンで調節します。

- 設定範囲:-36 dB ~ 0 dB (初期値:-20 dB)

④ 出力コンプレッサー調節

OUT 1～4の回路を突発的な過大出力による歪みを防ぎ、アンプ、スピーカーなどを保護します。ブロックタブの15ページ「出力コンプレッサー調節」と同じ機能です。



[出力コンプレッサー調節画面]

① 出力コンプレッサー ON/OFF ボタン

コンプレッサーのON/OFFを切り換えます。ONにすると、ブロックタブ、OUTPUTタブの対応する出力チャンネルのCOMPアイコンもON表示に切り換わります。(初期値:[OFF])

② GR (ゲインリダクションメーター)

コンプレッサーのかかり具合を確認できます。

③ THRESHOLD/RATIO/ATTACK/RELEASE レベル表示

● THRESHOLD

コンプレッサーをかけるレベル(スレッシュホールドレベル)を[◀▶]ボタンで調節します。

- 設定範囲:-32 dB ~ 0 dB (初期値:0 dB)

● RATIO

出力音量の圧縮率を[◀▶]ボタンで設定します。値が大きいほど圧縮率が高くなり、圧縮幅が増加します。

- 設定範囲:1:1 ~ ∞:1 (初期値:1:1)

● ATTACK

出力音量がスレッシュホールドレベルを超えた場合に、[RATIO]で設定された圧縮率までに達するまでの時間を[◀▶]ボタンで設定します。

- 設定範囲:2 ms ~ 200 ms (初期値:2 ms)

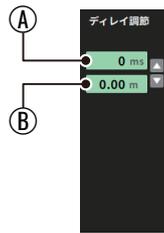
● RELEASE

出力音量がスレッシュホールドレベルより下がった後、圧縮が解除され通常のレベルに戻るまでの時間を[◀▶]ボタンで設定します。

- 設定範囲:10 ms ~ 1000 ms (初期値:10 ms)

⑤ デイレイ 調節

選択した出力チャンネルの信号の遅延時間を調節します。
ブロックタブの出力デイレイ調節と同じ機能です。



[デイレイ 調節画面]

① 遅延時間表示

標準からの遅延時間を表示します。

[▲ ▼] ボタンで増減の設定します。

遅延時間の設定を行うと、**OUTPUT**タブの対応する出力チャンネルの**DELAY**アイコンもON表示に切り換わります。

② 到達距離表示

設定した遅延時間を音速 (330 m/s) で距離換算した値が自動で表示されます。

2 個のスピーカーの配置距離の目安となります。

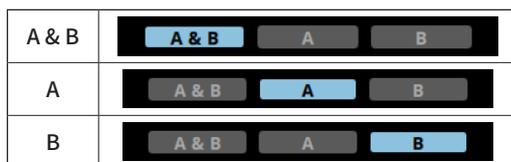
端子	パラメーター	設定範囲	初期値
OUT 1 ~ 4	遅延時間	0 ~ 300 msec (1 msec step)	0 msec
	到達距離	99.00 m (0.33 m step)	0.00 m

⑥ OUT1A/1B、OUT2A/2B 選択ボタン

モノラル/ステレオ切り換えボタン(*)で、OUT 1A/1B と OUT 2A/2B を MONO に切り換えると、OUT 1A/1B と OUT 2A/2B を同時 ([A & B]) に設定するか、OUT 1A または OUT 2A に L ch([A])、OUT 1B または OUT 2B に R ch([B]) を個別に設定するか選択できます。

また、設定した内容を **オシレーター設定 (③)** と **出力コンプレッサー調節 (④)** にも共有され、同一に設定されます。

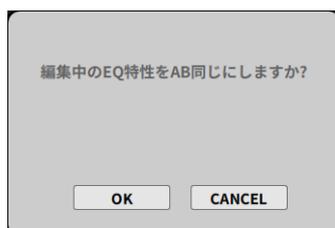
* モノラル/ステレオ切り換えボタンについては、13 ページ「モノラル/ステレオ切り換えボタン」、21 ページ「⑤ モノラル/ステレオ切り換えボタン」を参照してください。



[A/B 選択画面]

(初期値: [A & B])

- [A] または [B] から [A & B] に切り換えたときは、[A] と [B] が同一に設定されます。
同一設定される前に確認メッセージが表示されます。



[確認メッセージ画面]

同一で良い場合は、[OK] ボタンを押してください。
同一にしたくない場合は、[CANCEL] ボタンを押してください。

補助設定タブ

アナウンスミュート設定、ミュージックミュート設定、ハウリングサプレッサー設定、パターン切り換えスイッチ割り当てのパラメーター設定が行えます。

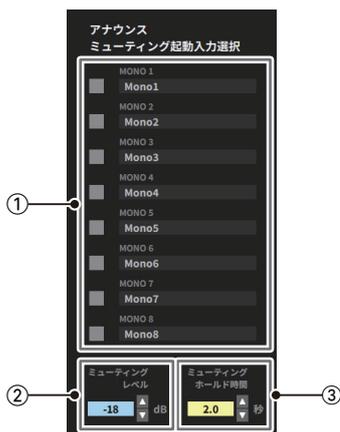


[補助設定画面]

アナウンスミュート設定

指定したMONO 1～8入力に信号(アナウンスなど)が入力されると、同じ出力システムにアサインされているSTEREO 1～4入力信号(音楽など)の音量を自動的にミュート(減衰)させ、目的のアナウンスを明瞭に放送することができます。

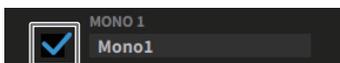
指定したMONO 1～8入力の信号がなくなると、自動的にSTEREO 1～4入力の信号の音量が元に戻ります。



[アナウンスミュート設定 起動入力選択画面]

① アナウンスミュート設定 起動入力選択

アナウンスミュート機能を使用するMONO 1～8入力のチェックボックスにマーカー(☑)を付けます。



[チェックボックス画面]

② ミュートレベル調節

アナウンスミュートが起動したときの、STEREO 1～4入力の信号の減衰量を設定します。



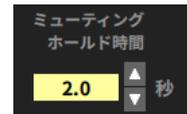
[ミュートレベル画面]

[▲ ▼]ボタンで増減の設定します。

- 設定範囲: -INF ～ -3 dB (初期値: -18 dB)

③ ミュートホールド時間設定

アナウンスミュートを解除するまでの時間を設定します。



[ミュートホールド画面]

[▲ ▼]ボタンで増減の設定します。

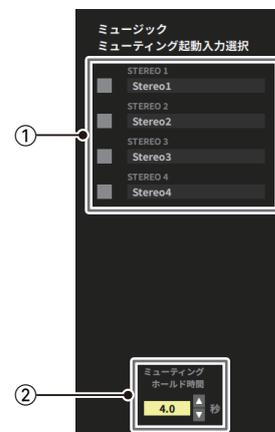
- 設定範囲: 0.1 ～ 5.0 秒 (初期値: 2.0 秒)

ミュージックミュート設定

指定したSTEREO 1～4入力に信号(音楽など)を入力すると、同じ出力システムにアサインされている他のSTEREO 1～4入力に入力されていた信号を自動的にミュートします。

複数のチャンネルをONにしたときは、チャンネル番号の小さい方が優先されます。

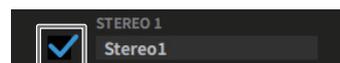
指定したSTEREO 1～4入力の信号がなくなると、ミュートされていた信号は自動的に元の音量に戻ります。



[ミュージックミュート設定 起動入力選択画面]

① ミュートホールド時間設定

ミュージックミュート機能を使用するSTEREO 1～4入力のチェックボックスにマーカー(☑)を付けます。



[チェックボックス画面]

② ミュートレベル調節

ミュージックミュートを解除するまでの時間を設定します。



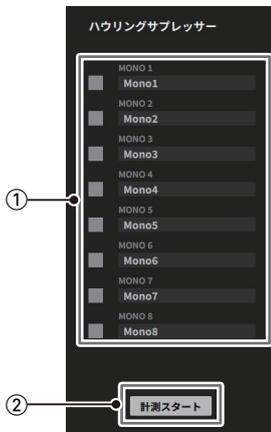
[ミュートホールド画面]

[▲ ▼]ボタンで増減の設定します。

- 設定範囲: 0.1 ～ 5.0 秒 (初期値: 2.0 秒)

ハウリングサブレッサー測定

MONO 1～8 入力にハウリングサブレッサーの自動計測を行うと、音場の残響特性、伝送特性など固有のハウリング周波数や抑圧レベルを分析して、プリセットフィルター(4バンド)を設定し、ハウリングを抑制します。
システム使用中にハウリングが発生すると、アクティブフィルター(2バンド)が自動的にハウリングを抑制します。



[ハウリングサブレッサー画面]

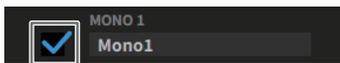
メモ

- 本体とオフライン時は、自動計測を実行できません。
- 自動計測を行う前に、マイクとスピーカーの距離を5m以上離して、無音の状態で行ってください。
- 本体に接続したパワーアンプの出力音量を調節するマイクで声を出しながら、パワーアンプの出力音量を少しずつ上げ、必要な音量になるよう調節してください。

自動計測は、十分な効果を得るために実際に使用する環境と同じ状態(各種ミキサー設定、スピーカーやマイクの位置)で行ってください。

① ハウリングサブレッサー選択

ハウリングサブレッサー機能を有効にする MONO 1～8 入力のチェックボックスにマーカー(☑)を付けます。

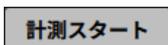


[チェックボックス画面]

マーカーを付けた入力チャンネルは、17 ページ「INPUT タブ」の対応する入力チャンネルの H.SUP アイコンも ON 表示に切り換わります。

② ハウリングサブレッサー計測スタートボタン

計測ボタンを押すと、チェックボックスにマーカーを付けた入力チャンネルを昇順で自動計測が始まります。



メモ

計測中はスピーカーからハウリング音が聞こえますが、ハウリングを起こさせて実際に測定しているため、故障では有りません。

- 自動計測中は、以下のメッセージを表示します。



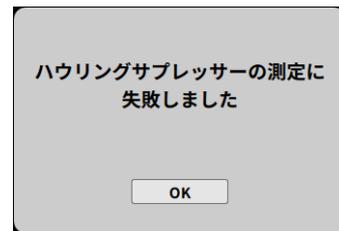
[計測中メッセージ画面]

- 1つの入力チャンネルが終わると、選択した次の入力チャンネルに移動して、自動計測を継続します。
- 計測中メッセージ画面の[中止]ボタンを押すと、自動計測を中止してメッセージ画面を閉じます。
自動計測を中止した際は、ハウリングが正しく抑制されませんので、必ず自動計測を再度実行してください。
- すべての入力チャンネルの自動計測が正常に完了すると、計測中メッセージを閉じます。
- 自動計測でハウリングポイントが見つからなかった場合、以下のメッセージを表示します。
([OK]ボタンを押すとメッセージ画面を閉じます。)



この場合、現在の環境がハウリングが発生しにくい状態であることを意味します。
マイクとスピーカーを極端に近づけないようにしてシステムを運用してください。

- 自動計測がエラーになった場合、以下のメッセージを表示します。
([OK]ボタンを押すとメッセージ画面を閉じます。)



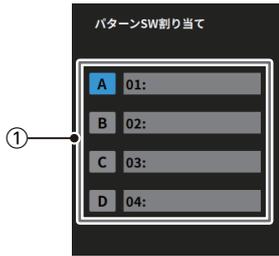
計測エラーになった場合は、マイクの向き、スピーカーの向き、パワーアンプの出力音量などを再度調節し、最初からやり直してください。

注意

拡声レベルが極端に上がっている、またはマイクとスピーカーが接近しすぎていると、ハウリングサブレッサーの自動計測が正確に行えない場合があります。

パターン切り換えスイッチ割り当て設定

本体のMEMORYスイッチA～Dに、設定したパターンメモリーを割り当てます。



[ハウリングサブレッサー画面]

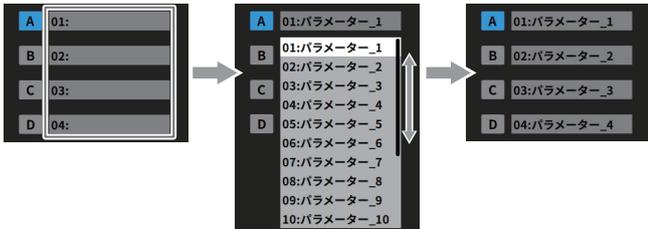
メモ

初期値では、MEMORYスイッチA～Dにパターン1～4が設定されています。(パターン1～4のメモリー内容は、すべて同じです。)

① パターン切り換えスイッチ割り当て

A～Dのパターン名称欄のいずれかを押し、34ページ「パターン設定タブ」で設定した16パターンが表示します。その一覧から目的のパターンを選択し、パターンメモリーを割り当てます。

パターン一覧は、右横のスクロールバーで上下にスクロールできます。



[パターンメモリー切り換えボタン]

- A～Dに選択したパターンメモリーは、ブロックタブの16ページ「パターンメモリー切り換えボタン/パターン名称表示」に反映されます。

端子設定タブ

本体の外部制御用 (REMOTE I/O 端子) の設定や、ネットワーク設定が行えます。



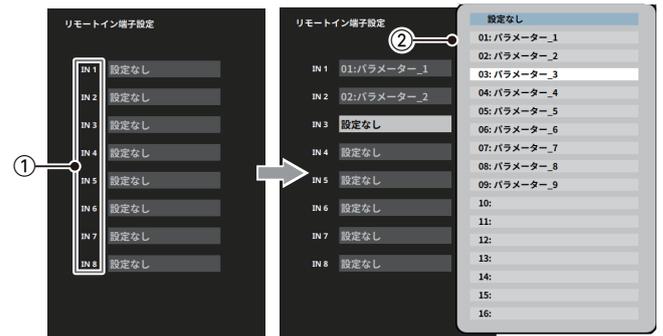
[端子設定画面]

メモ

REMOTE I/O 端子の仕様については、本体取扱説明書を参照してください。

リモートイン端子設定

34ページ「パターン設定タブ」で保存したパターンメモリーを画面の「IN 1～8」に割り当て、本体のリモートイン端子 [1～8] の外部入力信号でパターンメモリーの切り換えが行えます。



[リモートイン 端子設定画面]

① リモートイン端子

本体のリモートイン端子 [1～8] に対応するピン番号です。

② パターンメモリー選択

リモートイン端子の入力信号で切り換えるパターンメモリーを選択します。

リモートアウト端子設定

本体のリモートアウト端子 [1～8] の出力信号で、外部機器を制御するコントロール信号のON/OFF設定が行えます。



[リモートアウト 端子設定画面]

① リモートアウト 端子

本体のリモートアウト端子 [1～8] に対応するピン番号です。

② リモートアウト端子設定ボタン

本体のリモートアウト端子に接続した外部制御機器(リレーやタイマーなど)にオープンコレクタの信号を出力します。



(初期値:[OFF])

本体に接続した外部制御機器経由でCDプレーヤーなどの起動が行えます。

③ 外部電源制御出力 ON/OFF スイッチ

本体の REMOTE I/O 端子の9ピンに信号を供給します。

(初期値:[OFF])

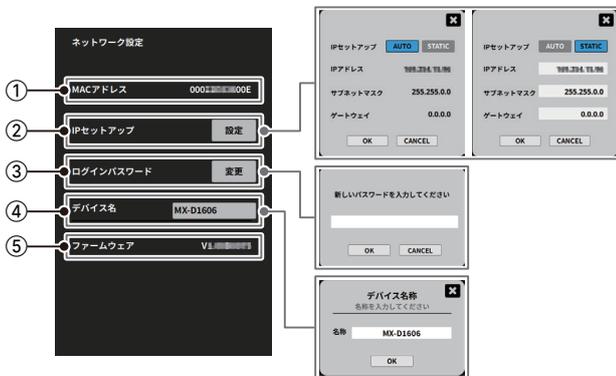
④ リモートアウト端子名称表示

各リモートアウト端子に接続した機器の名称を入力し、表示します。接続した機器の名称を入力し、[OK]ボタンを押してください。

ネットワーク設定

本体の MAC アドレス、通信設定、パスワード設定、本体名称表示、本体ファームウェア表示の確認や設定が行えます。

- ネットワーク設定の変更を適用するには、本体を再起動する必要があります。
ネットワーク設定は、パターンファイルの読み込みを行っても変更されません。



[ネットワーク設定画面]

① MAC アドレス

本体の MAC アドレスを表示します。

② IPセットアップ

ネットワークの通信方法を [AUTO]、または [STATIC] から選択できます。(初期値:[AUTO])

● AUTO

自動で IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを取得します。(ログインしている場合は、現在の設定を表示します。)

● STATIC

手動で IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定します。(入力部分を白く表示します。)

③ ログインパスワード

本体にログインする際のパスワードを設定します。

パスワードの長さは、19文字でアルファベット大文字、小文字、数字に加え、下記の記号を入力することができます。

- () [] { } ! @ # \$ % & . , ; _ ' ` ^ ~

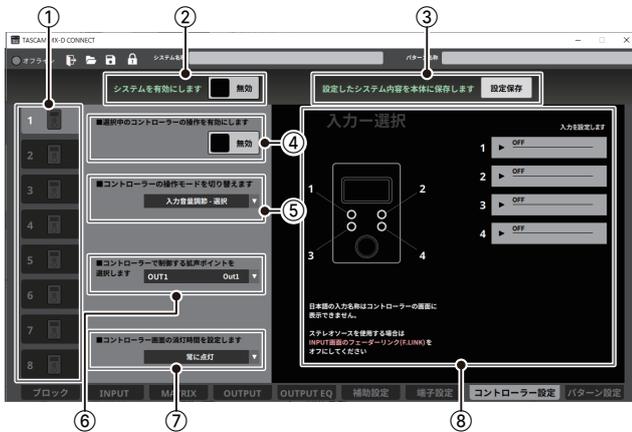
メモ

- 本体に初期パスワードは、設定されていません。
(初回接続は、パスワード空欄のままログインしてください。)
- パスワードを設定しないと外部から保護されません
- ④ デバイス名
ログイン画面に表示される本体(MX-D1606)の名称を表示します。
- ⑤ ファームウェア
本体のファームウェアバージョンを表示します。

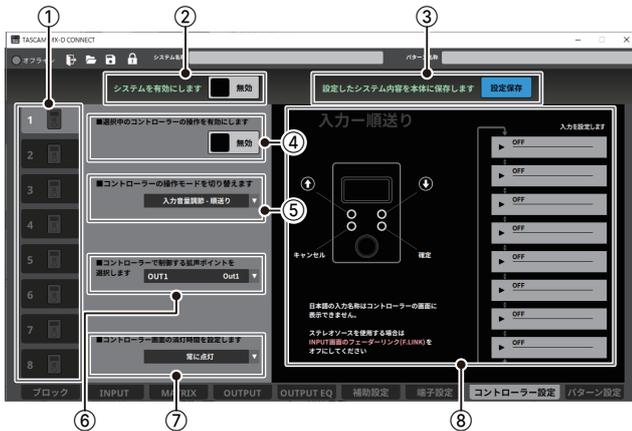
コントローラー設定タブ

本体のRS-485端子に接続したRC-W100(以降、RC-W100と表記)にて操作する内容を設定することができます。
最大8台のコントローラー設定が可能です。

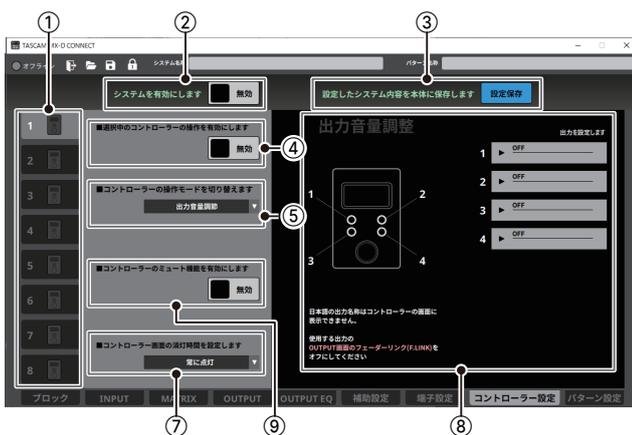
- RC-W100 本体の設定や操作方法については、[RC-W100-R120/RC-W100-R86 取扱説明書] をお読みください。



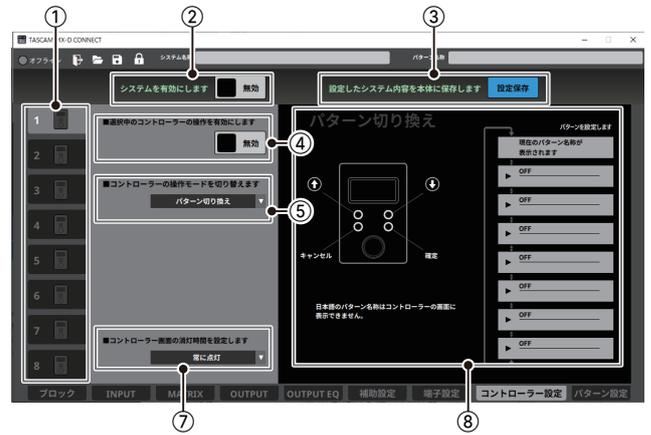
[操作モード・入カー選択選択時]



[操作モード・入カー順送り選択時]



[操作モード・出力音量調節選択時]



[操作モード・パターン切り換え選択時]

① コントローラー切り換えタブ(1～8)

コントローラータブ(1～8)を切り換える毎に、本体に接続しているRC-W100を操作する内容や設定を表示します。また、タブのRC-W100アイコンで接続状況および設定状態を表示します。

アイコン表示	内容
	システムスイッチが[無効]のとき
	システムスイッチが[有効]で、本体にRC-W100が接続されていないとき。
	システムスイッチが[有効]で、本体にRC-W100が接続され、コントローラー操作スイッチが[有効]のとき。
	システムスイッチが[有効]で、本体にRC-W100が接続され、コントローラー操作スイッチが[無効]のとき。

メモ

コントローラータブの番号は、RC-W100のディップスイッチで設定したID(1～8)に対応しています。

② システム有効/無効スイッチ

システム機能全体の[有効]/[無効]を切り換えます。
[有効]にすると、本体に接続されているすべてのRC-W100で、本体のコントロールが可能になります。
(初期値:[無効])

メモ

[システム有効/無効]スイッチが無効の状態でも、各RC-W100のコントローラーの設定は可能です。

③ システム設定保存ボタン

このボタンを押すとコントローラータブ(1～8)の設定をすべて保存します。

注意

- このボタンでシステム設定を保存しないと、本体にコントローラーの設定内容が保存されません。
- パターン毎でコントローラーの設定内容を切り換えたい場合には、システム設定を保存した上で、必ずパターンメモリーを保存してください。(→34ページ「パターン設定タブ」)

④ コントローラー操作有効／無効スイッチ

コントローラータブの1～8を個別で[有効]／[無効]を切り換えます。

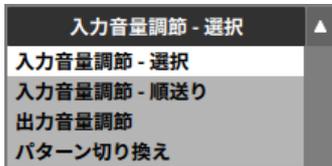
[有効]にすると、該当するRC-W100から本体のコントロールが可能になります。

(初期値:[無効])

⑤ 操作モード切り換え選択

RC-W100の4つのボタンで行う操作内容を選択します。

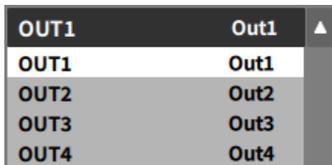
(初期値:[入力音量調節-選択])



各操作モードの詳細は、32ページ「操作モードの詳細」を参照してください。

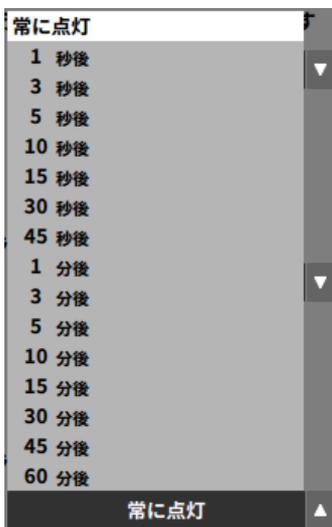
⑥ 拡声ポイント選択

操作モードが[入力音量調節-選択]または[入力音量調節-順送り]のとき、RC-W100で制御する拡声ポイント(OUTPUT)を設定します。



⑦ 画面消灯時間設定

RC-W100を最後に操作してからバックライトが消灯するまでの時間を設定します。



- 設定範囲: 1秒～60分、常に点灯(初期値:常に点灯)

⑧ ソース選択

RC-W100で操作するソースを選択します。

設定した操作モードによって、RC-W100の4つのボタンに割り当てる選択肢が異なります。

メモ

ソース選択がされていない場合は、ソース選択機能は無効になります。

⑨ ミュート機能有効／無効スイッチ

操作モードが[出力音量調節]のとき、選択した出力のミュート機能を有効にできます。

この設定は、それぞれのRC-W100で設定可能です。

[有効]にすると、該当するRC-W100のマルチジョグダイヤルを押すことで本体の出力のミュートが可能になります。

(初期値:[無効])

RC-W100のディスプレイの表示について



RC-W100のディスプレイで表示できる文字は、次の通りです。

0123456789

ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

!#\$%&'()*+,-./[\^_{};<=>?@`|

1文字分の空白(スペース)

- 上記以外の文字を使った場合、正常に文字を表示できません。
- RC-W100に表示される文字は、最大8文字です。
- 9文字目以降は、RC-W100には表示されません。

操作モードの詳細

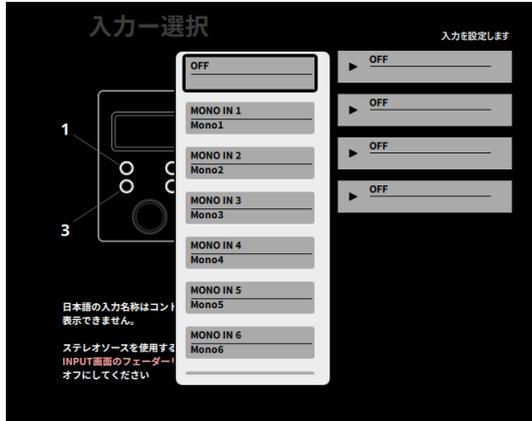
入力音量調節－選択

RC-W100 で最大 4 つの入力ソースの音量調節ができます。

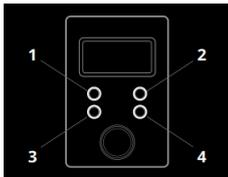
- ソース選択 (Ⓢ) で、RC-W100 の各ボタンに割り当てたい入力ソースを選択してください。

選択肢：OFF (初期値)、MONO1~8、STEREO1~4、USB IN

- MONO1~8 は拡声ポイントで設定した出力に対するマトリクスミキシングレベルの調節を行います。
- STEREO1~4、USB IN は入力フェーダーの調節を行います。



● RC-W100 の操作



1. 4 つのボタンのいずれかを押し、音量を調節する入力ソースを選択します。
2. マルチジョグダイヤルを回して音量を調節します。

注意

ステレオ入力を選択する場合は、そのチャンネルの FADER LINK はオフにしてください。

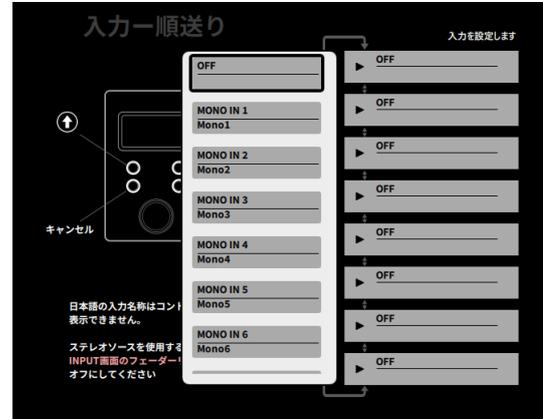
入力音量調節－順送り

RC-W100 で最大 8 つの入力ソースの音量調節ができます。

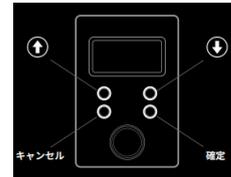
- ソース選択 (Ⓢ) で、音量調節したい入力ソースを選択してください。最大で 8 つ選択可能です。

選択肢：OFF (初期値)、MONO1~8、STEREO1~4、USB IN

- MONO1~8 は拡声ポイントで設定した出力に対するマトリクスミキシングレベルの調節を行います。
- STEREO1~4、USB IN は入力フェーダーの調節を行います。



● RC-W100 の操作



1. 上側 2 つの [↑/↓] のボタンを押すと、RC-W100 のディスプレイに設定した入力ソースを昇順/降順で表示します。
2. ディスプレーから音量を調節したいソースを選択し、右下の [確定] ボタンを押します。また、入力ソースの確定前に左下の [キャンセル] ボタンを押すと選択した内容を破棄して、元の画面に戻ります。
3. マルチジョグダイヤルを回して音量を調節します。

注意

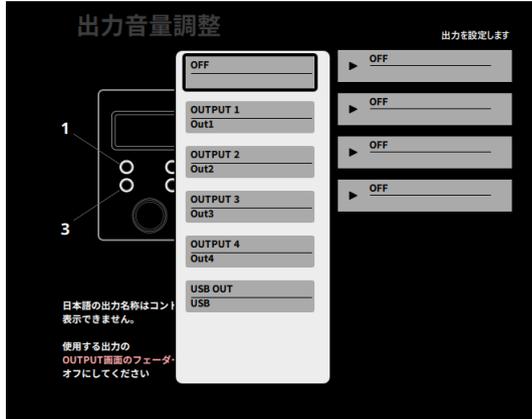
ステレオ入力を選択する場合は、そのチャンネルの FADER LINK はオフにしてください。

出力音量調整

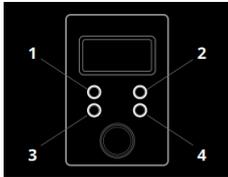
RC-W100 で最大 4 つの出力音量調節ができます。

- ソース選択 (Ⓢ) で、RC-W100 の各ボタンに割り当てたい出力ソースを選択してください。

選択肢：OFF (初期値)、OUTPUT1~4、USB OUT



- RC-W100 の操作 (音量の調節)



1. 4 つのボタンのいずれかを押し、音量を調節する出力ソースを選択します。
2. マルチジョグダイヤルを回して音量を調節します。

- RC-W100 の操作 (ミュート)

マルチジョグダイヤルを押すと、ミュートのオン/オフの切り換えができます。

注意

選択した出力チャンネルの FADER LINK はオフにしてください。

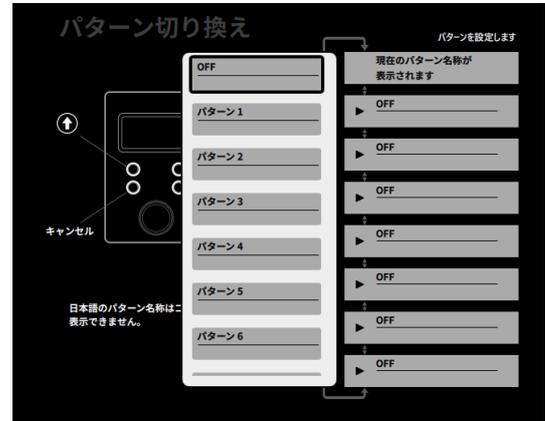
パターン切り換え

RC-W100 で最大 7 個のパターンを切り換えることができます。

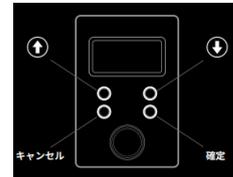
このモードでは、RC-W100 のディスプレイに現在呼び出されているパターン名称が表示されます。

- ソース選択 (Ⓢ) で、切り換えたいパターンを選択してください。最大で 7 つ選択可能です。

選択肢：OFF (初期値)、パターン 1~16



- RC-W100 の操作



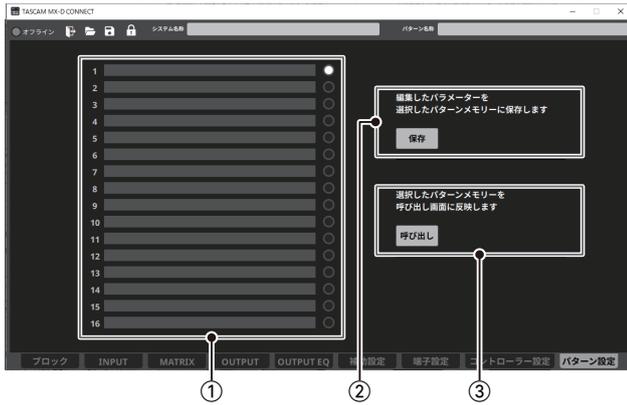
1. 上側 2 つの [↑/↓] のボタンを押すと、RC-W100 のディスプレイに設定したパターン名称を昇順/降順で表示します。
2. ディスプレーから切り換えたいパターンを選択し、右下の [確定] ボタンを押します。また、パターンの確定前に左下の [キャンセル] ボタンを押すと、選択した内容を破棄して、元の画面に戻ります。
3. パターンが切り換わります。

メモ

パターン名称が設定されていないパターンは、RC-W100 のディスプレイでは「PTN_10」のように表示されます。

パターン設定タブ

編集したパラメーターを1～16のパターン番号に割り当て、パターンメモリーに保存します。



[パターン設定画面]

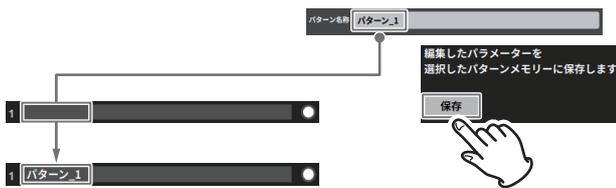
① パターン番号リスト(1～16) / パターン名称表示

1～16のパターン番号に保存されているパターン名称を表示、選択します。

- パターン名称の入力方法は、9ページ「パターン名称入力／表示」を参照してください。

② パターンメモリー保存

編集したパラメーターをパターン番号リストで選択した番号にパターンメモリーを保存します。

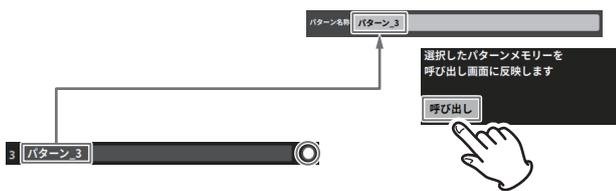


[パターンメモリー保存画面]

③ パターンメモリー呼び出し

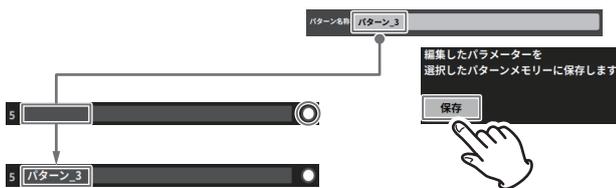
パターン番号リストに保存されているパターンメモリーを呼び出します。

- 呼び出したいパターン番号のラジオボタン(⊙)で選択し、[呼び出し]ボタンを押します。(例: パターン番号3)



[パターンメモリー呼び出し画面]

- パターン入力欄にパターン番号リストから選択したパターン名称が表示します。



ティアック株式会社 〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47

● 電話 **042-356-9137** 携帯電話・PHS・IP 電話から

● ナビダイヤル  **0570-000-809** 一般電話から

● FAX **042-356-9185**

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田 858

● 電話 **04-2901-1033** 携帯電話・PHS・IP 電話から

● ナビダイヤル  **0570-000-501** 一般電話から

● FAX **04-2901-1036**

受付時間は、9:30～12:00 / 13:00～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。